

50  
25

學階試驗科目全書

第六卷

祝詞作文法

全

明治廿四年十二月發兌

水穗會

祝詞作文法目錄

第一章 作文大意

第三章	句例
發端拜詞句	
結尾拜詞句	
稱德句	
由緣句	
感謝句	

裝束句

作行句

獻供句



祈願句

第三章 文例

年始祝詞

紀元節

祈年祭

除蝗祭

大祓祝詞

宮地鎮謝祭

地鎮祭

新殿祭

遷宮祝詞

造竟廊石垣祝詞

造竟御廡祝詞

宮門祭

門神祭

竈神祭

井神祭

出船祭

祈漁祝詞

祈獸獵祝詞

祈雨祭

祈晴祭

拜藥神祝詞

吉備津神社例祭

砥鹿神社例祭

山室山神社大祭

祭祖靈祝詞

六月月次

遣唐使時奉幣

春日祭

平野祭

祈年祭

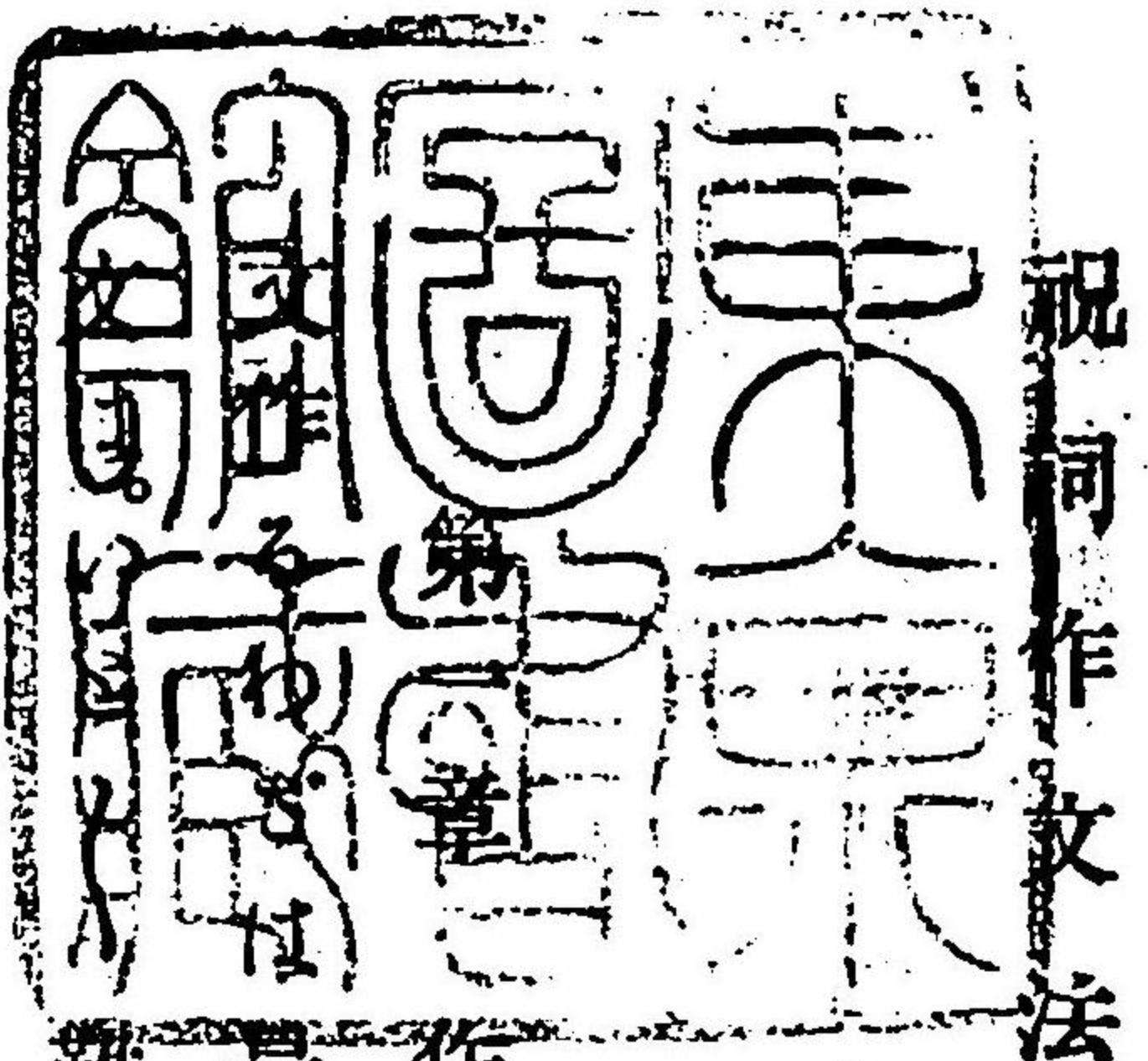
龍田風神祭

鎮火祭

遷却崇神祭

第四章 送假字と音假字

特19  
685



祝詞作文法

作文大意

本居 豊 穎 閣  
春 山 頼 母 著

神の御心をさへ感せしむべき文なればなりかし。されど。眞白玉ふすめでなく美はしき文を作らむ事こそあれ。主意の明かに。文脈の滞りなく聞ゆるばかりの文作らむかたには。なか／＼難からずともいふべきが如し。そは。如何といふに。祝詞文は。記事文或は論文などとは

異にて。其の体裁粗一定せるものなればあり。依て之を  
 作らむとするには。先一定の体格ある事を知るに在り。  
 其の体格を知むとするには。一篇の文は。如何ふる意味  
 をもてる種々の句より。組立てられたりや。はた。そを組  
 立てたる種々の句は。如何ふる順序もて。一篇の文を綴  
 り成したりや。といふ事を知るべきあり。そも。祝詞  
 文を組立てたる句に。八種の別あり。拜詞句。神徳句。由縁  
 句。感謝句。裝束句。作行句。献供句。祈願句なり。又拜詞に。發  
 端と結尾との二種の別あり。此の種々の句を以て。一篇  
 の文を綴り成す上におきて。其の順序の異同あり。即ち  
 左の如し。

- 一 發端拜詞句
- 二 神徳句
- 三 由縁句
- 四 感謝句
- 五 裝束句
- 六 作行句
- 七 献供句
- 八 祈願句
- 九 結尾拜詞句

右の二格は。祝詞文の常格ふり。そが中にも。前格を以て普通格とす。さて此の二格。いづれも。神徳句の位置に。更に由縁句を置くことあり。由縁句は。神事にもあれ。何事にもあれ。物の古事本縁をいへる詞どもふれば。自然に。其の句法は。餘の句どもと大に異なり。そは。神徳句ふどの諸句は。其の續け成し。長きものなるを。由縁句は。本來記事文なるが故に。その續けなしは。餘の諸句に比しては。大に短きものふり。

又感謝句は。神徳を感謝し奉れる詞どもふれば。必ず。神徳句の下に。接續し。裝束作行の二句は。神徳句と獻供句或の祈願句との間に挟み置くものふり。之を要するに。

拜詞神徳由縁獻供祈願の五句は。祝詞文を組立つるごころの骨ふり肉ふり。其の餘の感謝裝束作行の三句は。皮膚ふり毛髮ふりと知るべし。故に長篇の祝詞は。い。發端拜詞句。神徳句。由縁句。獻供句。祈願句。結尾拜詞句。といふ順序もて。一篇の文を綴り成すものふり。これ祝

詞文を作る法の大體ふりさす。故に。祝詞文を作らむとす。此の章に通曉したらむのちは。直に次章に移りて。句の林にわけいりて。其の生ひ立てる句ごもの。或ハ短く或ハ長く或ハ直く或ハ曲れるさまの枝振あることを辨不知るべし。さては。またその次章に進みて。文の園に遊ばりて。其の句ひ咲ける花を手折りてかざしつゝ。ありふた。つひにわが思ふまゝに文を作り成し得べく。また。注意もおほしからず。文脈も亂れざるべし。然れど。此の文例は。主と正格の文のみを採輯したるが故に。祝詞文の妙。此の書に止まらざるなり。學者いやはに明むたなり。古事記。及古風土記の文。續日本紀に

載れる宣命文。また萬葉集の歌詞ふごの古言の妙處は踏分け入るべし。かく勞きつゝありふた。遂に人の心は交りふり神の御慮をも動し奉るばかりの文を作りえられふむかし。謂ゆる八種の句は。章句の句にて。句讀の句にあらず。故に語意の全く絶れたるも絶れざるもあり。句讀の句は。語意の全く絶れたるものにて。語學にいへる截斷言あり。本書の文例に。此の如き短線を注せるは。即ち句讀の句を示せるふり。さて又祝詞作りならむのち。其の書様をも正しむべし。文はいかによく作りおむたりとす。その書様の法もよく猥りふるは。心劣りせらるゝの



みならず。見む人も読み難く。はた読み誤りぬべし。之を正しくせむとするは。送假字の規則を知るにあり。送假字は。必ず音假字を用ゐて。訓假字を用ゐぬ例ふれば。古く慣用したれども。トの假字に止を用ゐ。テハといふに而者と書くふどハ宜しからずと心得べし。其假字の事ハ尙第四章にいはんことす。

### 第二章 句例

祝詞の句に。八種の別あり。拜詞句。神徳句。由縁句。感謝句。裝束句。作行句。獻供句。祈願句。又拜詞句に。發端と結尾との二種あり。抑。祝詞文を作らむとするには。先祝詞の句法を知らざるべからず。そは。一篇の文は。數多の句を以て組立てたるものふれば。故に學者必まづ此の篇を熟讀玩味して。句を作り章をなす法を悟入すべし。

### 發端拜詞句

此の條は、祝詞文の首に、まづ言ひ出で、神を拜む詞を擧ぐ

度會乃宇治五十鈴川上爾。大宮柱太敷立天。高天原爾。千木高知天。稱辭竟奉留。天照坐皇太神乃大前爾。申久(祝詞式)

こは、首に鎮座の地名を置き、次に神名拜詞を書く例文とすべし、但し、拜詞に稱辭竟奉留と書くは、天皇の御言に限るとにやと思へる、よしあれば、普通には之に換るに鎮坐須などいふべし、又、神名の上には、掛卷久毛畏伎などの詞を冠らすべし、凡て、式の祝詞は、天皇の申給ふ御言なれば、普通には其の儘用る難き事多かり、心得

ではあるべからず  
出雲國乃青垣山内爾、下津石根爾宮柱太敷立氏、高天原爾千木高知坐須、伊射那伎乃  
日眞名子、加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命、國作坐志大穴持命、二柱神乎始天、百  
八十六社坐皇神等(祝詞式)

於宇迦能山之山本、於底津石根一宮柱布刀斯理、於高天原一冰椽多迦斯理而(古  
事記)

參河國寶飯郡一宮村乃、底都岩根爾宮柱太知立豆、鎮座坐須、砥鹿大神乃宇頭乃  
御前爾、官位姓名慎美敬比恐美恐美毛申佐久(古學諄辭集)

石上振之神楯、伐本截末、於市邊宮、治天下、天萬國萬押磐尊(日本書紀)  
皇御孫命御命以、伊勢能度會五十鈴河上爾稱辭竟奉流、天照坐皇太神能大前  
爾申給久(祝詞式)

此の文は、本文を略けるものなり、普通には皇御孫命御命以の七字を省き又上に  
同しく、河上爾鎮坐須と書くべし

御縣爾坐皇神等前爾白久。高市。葛木。十市。志貴。山邊。曾布  
登。御名者白氏(祝詞式)

水分坐皇神等能前爾白久。吉野。宇陀。都祁。葛木。登。御名者  
白氏。辭竟奉者(祝詞式)

この上と同じく地名を首に置きたれども、次に祭るべき神等を取すべて、皇神等云  
々と先語を結び、次に神名を並擧ぐるものにて、是亦一の體なり、之を普通の文に移  
さば、某神社爾坐須皇神等乃御前爾白左久、某命某命登御名波白志氏などいふべ  
し

中山乃、此美豆山能麓乃磐根爾、宮柱太敷立、高天原爾千木高知流、吉備津宮平常宮止  
定賜比豆、神長柄神佐備鎮毛里座須、我皇大神乃大前爾、稱辭竟奉流、倭文手纏數爾母  
不在某、我言麻久毛綾爾畏計度、皇大神乃御名波、比古伊佐勢理毘古命、亦御名乎大  
吉備津日子命山申故者(松屋文後集)

大御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久神魂高御魂生魂足  
魂玉留魂大官乃賣大御膳都神辭代主登御名者白而辭  
竟奉者(祝詞式)

御門能御巫能稱辭竟奉皇神等能前爾白久櫛磐間門命  
豐磐間門命登御名者白氏辭竟奉者(祝詞式)

まは、神を齋さ祀る者を首に置きたるが、上文と稍異なるのみにて、其餘は同じ  
三柱綿津見神者阿曇連等之祖神以伊都久神也(古事記)

まは、祝詞文に移さば、某我以崇伎奉留掛卷毋畏伎皇神乃御前爾白左久などいふ  
べし

天皇我大命爾坐世恐岐鹿島坐健御賀豆智命香取坐伊  
波比主命枚岡坐天之子八根命比賣神四柱能皇神等能  
廣前七白久(祝詞式)

まは、他處に鏡坐せる神等を、一處にて祭祀を行ふ時の例文とすべし、但し、普  
普通のは、首の天皇云々の八字は冠らすべしに非ざるなり

天皇我御命爾坐世今木與利仕奉來流皇大御神能廣前  
爾白給久(祝詞式)

天皇我御命爾坐世久度古開二所能宮爾之氏仕奉來流  
皇御神能廣前爾白給久(祝詞式)

まは、仕奉り來し所由を言ふ時の例文とすべし、但し、神名をば省くべからず  
高天之原爾事始氏皇御孫之命止稱辭竟奉大八衢爾湯  
津磐村之如久塞坐皇神等之前爾申久八衢比古八衢比  
賣久那斗止御名者申氏辭竟奉久波(祝詞式)

まは、首に皇神等の坐す緣由を云ひて、次に御名を申すものにて、是亦一の體な  
り

黒田廣戸宮爾座豆、天下所知食氣皆天皇乃御子奈賀良爾、不奉國平治爲止、依左志賜比乃麻爾麻爾、大御身爾太刀取帶之、御軍士平安登毛比賜比、吉備國還言向和賜之與利、此處爾神止毛神止、伊都支祭禮留、我大吉備津日子命乃大前爾申久(松屋文後集)

結尾拜詞句

此の條ハ、祝詞文の結に置きて神を拜ひ詞を擧ぐ

萬世爾御坐令在米給登。稱辭竟奉久登申(祝詞式)

右の如く、稱辭竟奉久を以て結べるハ、祝詞式大方の例なれども、よは朝廷の御祭にて、天皇より申給ふ御言なる故に、かく大らかに云へるなり、普通には、祈禱奉其久又乞願奉其久など、書くべし、但し、元始祭新嘗祭などの祝祭には、祝辭もて結むるも可なるべし

宇事物願根鑷拔氏、朝日乃豊逆登爾稱辭竟奉久(祝詞式)

平良氣久安良氣久所知食登白(祝詞式)

よは、大慶祭の詞なれば、かく云へるなり、普通の祝詞ならむには、所聞食世と書

くべきなり

禱乎所聞食止、恐美恐美毛申給波久止申(台記別記)

今年十二月某日齋比鎮奉止申(祝詞式)

よは、鎮御魂齋戸祭の詞なれば、かくは申せるなり、故に神を鎮祭する時の

例文とすべし

大中臣太玉串爾隱侍天。今年九月十七日。朝日豊榮登爾。天津祝詞乃太祝詞辭乎。稱申事乎。神主部物忌等諸聞食止宣(祝詞式)

この、宣命の詞なれば、かく云へるなり、普通の祝詞ならむに云々稱申事乃由乎平氣久安氣久聞食世止恐美恐美毛白須と書くべきなり

大中臣茂粹中取持氏。恐美恐美毛申給久止申(祝詞式)

よは、齋内親王奉入時の詞なれば、かく申せるなり、普通の祝詞ならむに

ハ、姓名鹿自物膝折伏世恐美恐美毛白須、又鶉成須伊波比回利云々、又鶉自物頸根衝  
拔氏云々と白すべきなり

御相殿爾齋鎮奉留狀乎、神隨母所聞食豆相宇豆那比賜閉登、恐美恐美母白須(懸居  
家集)

廣伎厚伎 忠 賴乎、恐美恐美毛、歡奉里宇禮志美奉流登姓名恐美恐美母白須(鈴屋集)

今日乃御祭爾相集閉留神主等諸共爾鶉成並居、宇自物頸根衝拔互平手打上氣拜美恐  
美恐美毛 申給波久登白須(古學諄辭集)

畏自物進退比匍匐比、鶉自物項根突拔互、天之八平手打上互、畏美畏美毛言告里祝伎  
奉留登白須(古學諄辭集)

大御祭仕奉流事乃由乎、皇神等乃御心毛 明 爾所聞食登 恐美 恐美毛 申賜久登白須

(祝詞文例)

右等の中に、云云登白須と結ぶ所を、申賜波久登白須といふは、天皇の命に隨ひて宣る  
時にいふが、本義なるべく思はるれば、普通の詞には、避くる方穩なるべし

神德句

此の條は、皇神の御功德を稱へ奉れる詞を擧ぐ

皇御孫命御世乎。手長御世登。堅磐爾常磐爾齋比奉。茂御  
世爾幸閉奉故(祝詞式)

皇御孫命乃御世乎。堅磐常磐爾奉護利。五十櫃御世乃足  
良志御世爾。田永能御世止奉福爾依氏(祝詞式)

以上の文は、大御世を遠長に榮え坐すべく幸へ給ふ神德を稱へ奉れるなり

皇神能敷坐島能八十島者。谷蟻能狹度極。鹽沫能留限。狹  
國者廣久。峻國者平久。島能八十島墮事無。皇神等能依左  
志奉故(祝詞式)

こは、天下四方の國を、漏るゝ事なく天皇へ寄せ奉り給ふ神德を稱へ奉れる文なり

四方内外御門爾。如湯津磐村久塞坐氏。四方四角與利疎  
 備荒備來武。天能麻我都比登云神乃言武惡事爾相麻自  
 許利。相口會賜事無久。自上往波上護別。自下往波下護利。  
 待防掃却言排坐氏。朝波開門夕波閉門氏。參入罷出人名  
 乎問所知志。咎過在乎波。神直備大直備爾。見直聞直坐氏。  
 平良氣久安良氣久令奉仕賜故(祝詞式)

おは、大宮の御門に立塞り坐して、御門の開閉を守り、荒び疎び來む妖魅をもち、  
 何方よりモ入れじと問なく守り賜ふ、櫛磐間門豐磐間門命の神徳を稱へ奉れる文  
 なり

遠津神代爾二柱相並婆志。御心乎合世賜比御力乎合  
 世賜。諸共爾大八洲國修理堅米賜。國作坐大神登稱  
 辭竟奉大神等諸乃病乎治牟流。藥乃方乎母始賜比定賜

豆。天下爾所有流顯見青人草乃苦瀬爾落豆。阿都迦比惱  
 牟乎助賜比救賜閉婆(鈴屋集)

こは、神代の昔に、國土を經營成し賜ひまた醫藥を起し賜ひて、青人草を救け賜ひ  
 し、大穴牟遲命少名昆古那命の神徳を稱へ奉れる文なり

倭文手纏數爾母不在某我。言麻久毛綾爾恐計度。皇大神  
 乃御名波比古伊佐勢理昆古命亦御名乎大吉備津日子  
 命止申故者。針間能氷河乃前爾忌毘居豆。天地乃神爾乞  
 禱賜比針間乎道口止爲豆。此吉備國乃荒夫流神不奉仕  
 人乎言向和賜波武止天皇乃御子奈賀良所念看豆。御腰  
 爾大刀取佩志。御手爾弓取持之。軍士乎率伊佐奈比氏背  
 向奉流者乎擊賜比和賜布佐麻波。科戸之風爾天雲乃晴

留事能如久。朝日之影爾。露霜乃消留事能如久。爾奈母有  
那流。其御功爾與曾利天稱奉里互。大吉備津日子命止申

(松屋文後集)

吉備津日子命の神徳を稱へ奉れる文なり

高天原爾神留坐須。皇親神魯岐神魯美乃命以氏。皇御孫  
命波。豐葦原乃水穗國乎。安國止平久所知食止。天下依奉  
志時。八百萬乃神等乎。天安河乃河原爾神集集賜此。神議  
議給氏。彼國波。知速振荒振神多在止所聞食乎。誰乃神乎  
遣氏加言向萬志止問波志給布時爾。八意思兼神深久思  
先。遠久議給比都良久。天安河乃河上乃天岩屋爾座須。伊  
都之尾羽張神乃御子。建御雷之男神。石拆神根拆神乃御

子。經津主神。是善計牟止白賜伎。是以二柱大神等神漏岐  
神漏美乃大命乎以互。出雲國伊那佐乃小瀆爾。天降著給  
氏。國造良志志。大國主神。其御子言代主神乎。神問志問志  
給氏。現國乃事避志米。久那斗神乎。鄉導止爲天。大八洲國  
中。悉廻給氏。螢那須耀神。狹蠅那須邪伎神等乎。婆神掃  
掃給氏。語問志石根木根立。草乃片葉乎。毛言止氏。安國止  
平久鎮給伎。又畝火乃櫃原官爾。初國治看志志。天皇命乃  
大和國爾打入賜志時爾。邪神乃氣吹爾。瘁臥座留乎。國平  
乃。橫刀布都魂乎。天降志寄志給荒振神乎。皆切仆志賜伎。  
又師木水垣宮爾。大八洲國所知看志志。天皇命乃大御代  
爾。毛。大坂山乃頂爾。白妙乃大御服乎。著坐。白銚乎。御杖爾。

取坐。識賜命波。我御前乎治奉波。汝聞勝。知食國平久。大國  
小國事依賜牟止識賜伎。故此大稜威乃。高久貴伎御靈布  
由乎辱美氏(神祭式)

よは、鹿嶋神香取神の御稜威を稱へ奉れる文なり

由緣句

此の條は、物の古事本縁をいへる詞を擧ぐ

志貴島爾大八島國知志皇御孫命乃。遠御膳乃長御膳。此  
赤丹乃穗爾聞食須。五穀物乎始氏。天下乃公民乃作物乎。  
草乃片葉爾至萬氏不成。一年二年爾不在。歲眞尼久傷故  
爾。百能物知人等乃卜事爾出牟。神乃御心者。此神止白止  
負賜伎。此乎物知人等乃卜事乎。以氏卜止母。出留神乃御

心無止白止聞看氏。皇御孫命詔久。神等乎波。天社國社  
止忘事無久遺事無久。稱辭竟奉止思志行波須乎。誰神會。  
天下乃公民乃作物乎不成。傷神等波我御心會止。悟奉  
止宇氣比賜伎。是以皇御孫命大御夢爾悟奉久。天下乃  
公民乃作物乎。惡風荒水爾相都々不成。傷波我御名者。  
天乃御柱乃命國乃御柱乃命止。御名者悟奉氏。吾前爾奉  
牟幣帛者御服者。明妙照妙和妙荒妙五色乃物。楯戈御馬  
爾御鞍具氏。品品乃幣帛備氏。吾宮者朝日乃日向處。夕日  
乃日隱處乃。龍田乃立野爾小野爾。吾宮波定奉氏。吾前乎  
解辭竟奉者。天下乃公民乃作物者。五穀乎始氏。草乃  
片葉爾至萬氏。成幸閉奉牟止悟奉伎(祝詞式)



龍田小野に宮柱定奉りて、神祭を行ひ奉

り賜ひし古事をいへる文なり

神伊佐奈伎伊佐奈美乃命妹背二柱嫁繼給氏國乃八十  
國島能八十島乎生給比八百萬神等乎生給比氏麻奈弟  
予爾火結神生給氏美保止被燒氏石隱坐氏夜七夜晝七  
日吾乎奈見給比會吾奈妹乃命止申給比支此七日爾波  
不泥氏隱坐事奇止氏見所行須時火乎生給氏御保止乎  
所燒坐支如是時爾吾名妹乃命能吾乎見給布奈止申乎  
吾乎現阿波多志給比津止申給氏吾名妹能命波上津國  
乎所知食倍遠吾波下津國乎所知奉止白氏石隱給氏與  
美津敷坂爾至坐氏所思食久吾名妹命能所知食上津國

爾心惡子乎生置氏來奴止宣氏返坐氏更生子水神匏川  
菜埴山姫四種物乎生給氏此能心惡子乃心荒比會波水  
神匏埴山姫川菜乎持氏鎮奉禮止事教悟給支(祝詞式)

其の(火神の生坐し、所由より、其の御荒を鎮め奉らむ、四種の物の成出でし古事を

いへる文なり

高天原爾神留坐皇親神漏岐神漏美乃命以氏八百萬神  
等乎神集集賜比神議議賜氏我皇御孫之命波豐葦原乃  
水穗之國乎安國止平久知所食止事依志奉伎如此依志  
奉志國中爾荒振神等乎波神問志爾問志賜神掃掃賜比  
氏語問志磐根樹立草之垣葉乎毛語止氏天之磐座放天  
之八重雲乎伊頭乃千別爾千別氏天降依志奉支(祝詞式)

ふは、皇孫瓊々杵尊の、國君として天降り坐し、其の本縁を言へる文なり

高天之原爾神留坐氏、事始給志神漏伎神漏美能命以氏、天之高市爾八百萬神等乎、神集集給比神議議給氏、我皇御孫之尊波、豐葦原能水穗之國乎、安國止平氣久所

知食止、天之磐座放氏、天之八重雲乎伊頭之干別支爾干別氏、天降所寄奉志時爾、誰神乎先遣彼志、水穗國能荒振神等乎、神撰撰平氣武止神議議給時爾、諸神等皆量申久、天穗日之命乎遣而平氣武止申支、是以天降遣時爾、此神波返言不申

氏、次遣志饒三熊之命乎隨父事氏返言不申、又遣志天若彥毛返言不申氏、高津鳥、殃爾依氏、立處爾身亡支、是以天津神能御言以氏更量給氏、經津主命

健雷命、二柱神等乎天降給比氏、荒振神等氏神撰撰給比、神和和給氏語問志磐根樹立、草之片葉毛語止氏、皇御孫之尊乎天降所寄奉(祝詞式)

高天能神王高御魂神魂命能、皇御孫命爾天下大八嶋國乎、事避奉之時、出雲臣等我遠祖天穗比命乎、國禮見爾遣時爾、天能八重雲乎押別氏、天翔國翔氏、天下乎

見廻返事申給久、豐葦原乃水穗國波、晝波如五月蠅水沸支、夜波如火瓮光神

在利、石根木立青水沫毛、事問天荒國在利、然毛鎮平天、皇御孫命爾、安國止平久所知坐之米牟止申天、已命兒天夷鳥命爾、布都怒志命乎、副天、天降遣天、荒

布留神等乎、撥平氣、國作之、大神乎毛、姁鎮氏、大八島國現事、顯事令事避支(祝詞式)

高天原爾神留坐須、皇親神魯企神魯美之命以氏、皇御孫之命乎、天津高御座爾坐氏、天津靈乃鏡、劍乎、捧持賜天言壽、宣志久、皇我宇都御子皇御孫之命、此乃天津高御

座爾坐氏、天津日嗣乎、萬千秋乃長秋爾、大八洲豐葦原瑞穗之國乎、安國止平氣久所知食止言寄奉賜比氏、以天津御量氏、事問之、盤根木根立知、草能可岐葉乎毛、言止氏、天

降利賜比志(祝詞式) 高天之原爾神留坐須、皇親神漏伎神漏美能命乎以氏、皇御孫之命波、豐葦原能水

穗國乎、安國止定奉氏(祝詞式) 右國體の本縁を擧げて、今を明にせむと欲するものは、以上の文に據るべし、其の精

粗詳略は、時々の宜に隨ふべし

感謝句

此の條は、神徳を感謝し奉れる詞を擧ぐ

教悟給比那我良船居作給部禮波。悦已備嘉志美。禮代乃

幣帛乎。官位姓名爾。令捧賚氏進奉久(祝詞式)

掛畏岐大神乎奉憑天。大幣帛奉出給牟止祈申岐而爾

祈申志毛驗久。甘雨令零米賜倍利。因歡奈我良散位從五

位下大中臣朝臣國雄乎差使天。大幣帛乎令捧持天奉出

賜布(三代實錄)

此某等我醫藥乃業母。大神等乃米具美賜比。知波比將賜

御靈爾依互志過郡事無久。驗波將有登。廣伎厚伎恩賴乎

恐美恐美母歡奉理宇禮志美奉流(鈴屋集)

故遠遲無久拙伎篤胤等我友賀良爾至麻互爾。其御靈爾

依互志。遙那伎神代乃有那流形乎。宇迦迦比尋禰互。明那

久貴久奇靈爾畏伎神隨奈流道乃正實乎。百箇我一母悟

知事得互志有流恩賴乎。記志賜比令悟賜倍流。許許良乃

御書讀度每爾。頂爾捧持互。大人命乃教倍賜閉留。其御心

乎心登波爲互。一人母多久說教倍與登教倍置給倍流隨

爾朋友爾母語相比令聞多流乎。何母好聞受侍里互。諸共

爾此道乃學爾赴加比力乎合世心乎一爾志互。篤胤我拙

伎心爾。考得多流事共書記世流書共乎。世爾弘牟流功勞

乎助成互。次々爾板爾彫成佐牟登議里侍布爾那母。如此

久諸同心爾。倭魂乃振起禮流波。全大人乃命廼。此道乎幸

閉守里給布恩賴爾依流事登。嬉美辱美思比給閉良流流  
謝乎申斯。御祭仕奉良牟登爲豆(古學諄辭集)

故此大稜威乃高久貴伎御靈布由乎辱美氏(神祭式)

璞能年立歸留朝與里。年能終能夕麻氏。日爾異爾賜波留。

天津火能恩賴乎辱美氏(私祭要集)

裝束句

此の條の、神殿神門等の裝飾をいへる詞を擧ぐ

篤胤我新宅乃奥乃小床乎。伊豆乃磐境登。掃比清米弓。奥

山乃賢木乃枝乎。打折持來豆。伊豆乃眞坂樹登。二所爾刺

分(古學諄辭集)

故神離結固米。御船代爾。載奉氏。夫乃御蔭日御蔭覆物登

絹笠刺羽。幸行能道乃守止楯矛弓矢竝。鳥羽玉能夜吉

止。人能熟寐爲留亥時爾。人垣立氏。神主官位姓名。皇神乃

御尾前爾仕奉里。新宮爾遷奉氏(神祭式)

千歲將經山松乎佐根古士廻根古士邇之氏。五百枝刺小

竹取添氏。御門爾挿立氏。木綿取垂氏。端籠乃索引延氏(神

事略)

天香山之五百津眞賢木矣根許士爾許士而。於上枝取著八尺勾瓊之五百津之御

須麻流之玉。於中枝取繫八尺鏡。於下枝取垂白丹寸手青丹寸手而(古事

記)

奥山乃、賢木之枝爾、白香付、木綿取付而、齋戶乎、忌穿居、竹玉乎、繁爾貫垂、十六  
自物、膝折伏(萬葉集)

作行句

此の條は、動作をいへる詞を擧ぐ

今奥山乃大峽小峽爾立留木乎。齋部能齋斧乎以伐採氏。  
本末乎波山神爾祭氏。中間乎持出來氏。齋鉏乎以氏齋柱  
立氏。皇御孫之命乃天之御翳日之御翳止。造奉仕(祝詞式)

此の文、齋鉏乎以氏の下に、穴乎掘利氏などの語を省きて含ませたり。  
遠山近山爾生立留、大木小木乎、本末打切氏持參來氏、皇御孫命能瑞能御舍仕奉氏

(祝詞式)

こは、本文を略さたるなり、さてまた打切氏の下に、中間乎などの語を含ませたり  
五十鈴原乃荒草木根始掃比、大石小石造平豆、遠山近山乃、大峽小峽爾立材乎、齋  
部之齋斧乎以天伐採天、本末乎波、山祗爾奉祭豆、中間乎持出來豆、齋鉏乎以天、齋柱  
立、高天原仁、千木高知利、下都磐根仁、大宮柱、廣敷立天(倭姫命世記)  
於土平波、下爾堀返、下土平波、於堀返、大宮柱太知立奉給比、高天乃原爾知木高知奉、  
朝日奈須耀宮、夕日奈須光留宮爾、世長杵爾常世乃宮爾、靜坐(丹生祝氏文)

此地乎齋鋤齋鉏乎取持天、石切平均地曳平均掃、清氏(神祭式)  
如此出波。天津宮事以氏。大中臣。天津金木乎。本打切未打  
斷氏。千座置座爾置足波志氏。天津菅曾乎。本刈斷未刈切  
氏。八針爾取辟氏。天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮(祝詞式)

此の文、打斷氏の下に、中間乎持氏置座乎造利豆などの語を省き、取辟の下に、被比氏  
などの語を省きて、含ませたり、これ古文の一格なり

某甲我弱肩爾太禊取挂天。伊都幣能緒結天乃美賀祕冠  
利天。伊豆能眞屋爾麤草乎。伊豆能席登刈敷支天。伊都閉  
黒益之。天能鴈和爾齋許母利氏。志都宮爾志靜米仕奉氏。  
朝日能豐榮登爾。伊波比乃返事能。神賀吉詞奏賜波久(祝  
詞式)

獻供句

此の條の、神に獻る供物の詞を擧ぐ

奉 宇豆乃幣帛者。比古神爾御服明妙照妙和妙荒妙。五色能物。楯戈御馬爾御鞍具。品品能幣帛獻。比賣神爾御服備。金能麻笥。金能楯。金能持。明妙照妙和妙荒妙。五色能物。御馬爾御鞍具。雜幣帛奉。御酒者。應能閉。高知。應腹滿雙氏。和稻荒稻爾。山爾住物者。毛乃和物。毛乃荒物。大野原生物者。甘菜。辛菜。青海原爾住物者。鱸能廣物。鱸能狹物。奥都藻菜邊都藻菜爾。至萬氏爾。如橫山打積置氏。奉此宇豆乃幣帛乎。安幣帛能足幣帛止。皇神能御心爾。平久聞食氏(祝詞式)

獻供の物品の、其の多少によりて、異同われども、先の此の文を以て、例文とすべし

さてまゝに、彦神に武器、姫神に機具と、取分けて獻り賜へるは、最嚴重なる御祭なりし故なるべし、さて、其の他の、先御服、次に御酒、次に毛物、次に甘菜辛菜、次に鱸物、藻菜と次第せり

貢流神寶者。御鏡。御橫刀。御弓。御梓。御馬爾備奉理。御服波。明多閉照多閉和多閉荒多閉爾。仕奉氏四方國能獻禮留御調能。荷前取立氏。青海原乃物者。波多能廣物。波多能狹物。奥藻菜邊藻菜。山野物者。甘菜。辛菜。爾至麻氏。御酒者。饗上高知。饗腹滿立氏。雜物乎。如橫山積置氏。神主爾。某官位姓名乎。定氏。獻流宇豆乃大幣帛乎。安幣帛乃足幣帛登平外安久聞食者登(祝詞式)

は、御寶御服荷前鱸物甘菜辛菜御酒と次第せり

進流神財波。御弓。御太刀。御鏡。鈴。衣笠。御馬乎。引立氏。御衣

波。明多閉照多閉和多閉荒多閉爾備奉利氏。四方國能進  
 禮流。御調能荷前乎取竝氏。御酒波。鹿戸高知鹿腹滿竝氏。  
 山野能物波甘菜辛菜。青海原乃物波。波多能廣物波多能  
 狹物。奧都毛波邊津毛波爾至麻氏。雜物乎。如橫山置高成  
 氏。獻流宇豆乃大幣帛乎。平久所聞氏(祝詞式)

此は、御財御服荷前御酒甘菜辛菜諸物と次第せり

初穂乎波。千穎八百穎爾奉置氏。鹿閉高知鹿腹滿雙氏。汁  
 爾母穎爾母稱辭竟奉牟。大野原爾生物者甘菜辛菜。青海  
 原住物者。鱒能廣物鱒能狹物。奧津藻菜邊津藻菜爾至氏  
 爾。御服者。明妙照妙和妙荒妙爾稱辭竟奉牟(祝詞式)

此は、初穂御酒甘菜辛菜諸物藻菜御服と次第せり

右の三文のみならず、祝詞式を通考するに皆首に初穂乎波と言へば、先其の初穂の  
 事を言ひて、其の他を後に言ひ、首に神寶と言へば、神寶云々を先とし、其の他を  
 後にす、是其の御祭に就きて、主として獻る物を先とすと見えたり

奉留物波、今年乃初穂乎、神部等御戸代乃長田佐奈田爾忌麻理理、拔取豆、齋日爾春伎  
 齋笑爾、籩設豆、御食爾母炊伎、御酒爾母釀志、鹿閉高知鹿腹滿並、山物波、毛乃荒物  
 和物、海物波、鱒乃廣伎物狹伎物、野物川物種種乃物乎八取乃机母、繁爾滿備、(縣  
 居家集)

姓名我、弱肩爾太細取掛豆、持齋麻波里持清麻波理、造理仕閉奉禮留一夜酒登、我爾波安  
 良受、石多々須、常世爾在須久斯乃神、少御神乃釀志御酒登乎、白木黒木登、饗食高知  
 里豐、腹居竝倍、百杵乃八百杵爾、杵突伎仕奉禮留餅乃鏡、時自久乃香能菓種々爾、  
 粟實、柿實、梨實、洗米、赤飯、堅鹽、御毛比、大野原爾生留物波、甘菜辛菜乎始米、種々  
 乃物、青海原爾住物波、鱒乃廣物鱒乃狹物、大海仁生流物波、廣和布荒和布若和布乃與  
 津藻菜邊津藻菜爾至留麻氏爾、今日能禮代御饗乃物登、各毛持寄滿竝倍(古學)

御年初將賜登爲而皇御孫命能宇豆能幣帛乎。朝日能豐  
逆登爾。稱辭竟奉久(祝詞式)

幣帛は、獻供の總稱なるをもちて、御服御食御酒をも兼ねて言へるなり、さて幣帛乎の  
下に、奉 置支氏の四字を含めたり、よれ祝詞式皆然あれば、古文の一格と見えたり、然れども、普通には、書く方をよしとす

進 幣帛者。明妙照妙和妙荒妙爾。備奉氏。見明物止鏡。翫  
物 止玉射放物止弓矢打斷物止太刀。馳出物爾御馬御  
酒者。脰戸高知脰腹滿雙氏。米爾毛穎爾毛山爾住物者。毛  
乃和物毛能荒物。大野原爾生物者。甘菜辛菜。青海原爾住  
物者。鱒廣物。鱒狹物。奥津海菜邊津海菜爾。至万氏爾。横山  
之如久。凡物爾置所足氏。奉留宇豆乃幣帛乎。皇神等乃御

心毛。明爾。安幣帛乃足幣帛止。平久聞食氏。(祝詞式)

此の文、見明物、翫物、射放物、打斷物、馳出物など、鏡玉弓矢太刀御馬の功用  
の語を冠らせて、五對に言ひなして稱へたるは、他に比類なき文なり

絹波乍編綿波乍結進物波高坏我彌高高爾。飯乃方毛利  
加爾。清酒乃早爾。堅酒乃堅橘乃忽爾。餅乃持豆榮爾。鯛乃  
平爾。鱒乃彌益益爾。鮒乃好美好爾。鮑乃片岡爾。蠧乃搔寄  
豆齋乃庭佐食須。嚴久聞食志受納給豆(拾芥抄)

此の文、彌高々、方毛利加、早、堅、忽、持豆榮、平、彌益々、好美好、片岡、搔寄、  
庭左良須、飯、清酒、堅酒、橘、餅、鯛、鮑、蠧、齋の縁語を以  
て言祝ぎ奉れるは、是亦比類なき文なり、右二文は、普通の祝詞式にも、祝祭などに  
は、此の體を用ゐるべし、さて考ふるに、此の文は、出雲國造の神賀吉詞より轉化せ  
じまのなり、故に、神賀吉詞を左に擧ぐ



白玉能大御白髮坐、赤玉能御阿加良毗坐、青玉能水江玉乃行相爾、明御神登大八島國  
 所知能、天皇命能手長、大御世乎、御横刀廣爾誅堅米、白御馬能前足爪、後足爪踏  
 立事波、大宮能内外御門柱乎、上津石根爾踏堅米、下津石根爾踏凝之、振立流事波耳  
 能彌高爾、天下乎所知食在事志太米、白鶴乃生御調能玩物登、倭文能大御心毛多  
 親爾、彼方能古川岸、此方能古川岸爾生立、若水沼間能彌若敵爾御若敵坐、須須伎振遠  
 止美乃水乃、彌乎知爾御衰知坐、麻蘇比乃大御鏡乃面乎、意志波留志天見行事能已登  
 久、明御神能大八嶋國乎、天地日月等共爾、安久平久知行事能志太米止、御禰  
 神寶乎登持氏(祝詞式)

祈願句

此の條は、神に祈願ひ申す詞を擧ぐ

皇神等能依左志奉者(祝詞式) 奧津御年乎。手肱爾水沫畫垂。向股  
 爾泥畫寄氏取作牟。奧津御年乎。八束穗能伊加志穗爾皇

神等能依左志奉者(祝詞式)

此の文義は、御年の皇神等の、天皇へ寄奉らむ稻穀を、天下の百姓の、水に浸り、泥に  
 汚れて、勞さ作らむ其の稻穀を、八束穗の長く、茂穂の盛に、成幸へ賜ひて、天皇  
 へ寄せ奉らばと、祈はせ賜へるなり、うくて、初の奧津御年乎の下に、天下乃百姓の

六字、伊加志穗爾の下に、成幸閉賜比氏の六字を省きて含ませたり

皇神等能寄志奉者、奧都御年乎、八束穗能伊加志穗爾寄志奉者(祝詞式)

よは、本文を略きたるなり

如此奉者皇神等乃敷坐須山山乃自口狹久那多利乎下  
 賜水乎。甘水登受而天下乃公民乃取作禮留奧都御歲乎。  
 惡風荒水爾不相賜。汝命乃成幸波閉賜者(祝詞式)

此の文、甘水登受の下に、志米の辭ありけむが、脱ちたるならんか、受面とのみにて  
 は、いさゝく事足らざるが如し、文義は、今此の如く幣帛を奉るに、皇神等の敷坐せ

る山々の口より、落し下し賜ふ谷水を、和水と天下の公民等が受賜のりて取作る稻穀を、暴風雨にも遇はしめ賜はずして、豊かに、稔りたれば、又秋の祭に其初穂を獻りて報賽の禮を行はんといふなり

奉 此字豆乃幣帛乎、安幣帛能足幣帛止、皇神能御心爾平久聞食氏天下能公民能作作物乎、惡風荒水爾不相賜、皇神乃成幸爾賜者(祝詞式)

おは、本文を省きたるなり

公 民乃人等我、歎支慨幸事乃狀乎、米具久悲久思行坐豆、今毛往前毛彌益益爾殿乃御遺乎、幸爾坐兵、彼方乃山乃峽、此方乃山乃峽、與利、雲立騰氏、海神乃與津宮方爾、競比和多利豆、忽爾天津水乎令降給比、或波神鳴利震動豆、穀等傷布蟲乃類乎毛拂比賜比、每田乃水口、野澤乃澄水多藝知流豆、手肱爾水沫搔垂、向股爾泥搔寄豆取作留、與津御年乎始豆、朝夕爾耘利培比、勞支、作留、陸田物等與利、山縣爾蒔流、青菘之類爾至迄毛、成傷波受、彌榮爾榮、彌繁爾繁豆、八束穗乃茂穗爾成幸爾賜比、百姓等我心足比豆、惠良惠良爾笑比饒布計里、奇之支、御靈乎幸爾賜比、其家内毛

皇天御神能見靈志坐四方國者天能壁立極國能退立限

能至留極大海原爾舟滿都都氣氏自陸往道者荷緒縛堅氏磐根木根履佐久彌氏馬爪至留限長道無間久立都都氣氏狹國者廣久峻國者平久遠國者八十綱打挂氏引寄如事皇大御神能寄奉波(祝詞式)

首の御名、本書に太御の二字なし、今祝詞考に従ひて備へり、此の文義は、天照大御神の天上に坐して、偏く見照し坐す天下四方の國は、天の遠く壁立つ如く國の遊に退立の如く見ゆる極み、青雲の遙に歸る白雲の遠く陸居向伏して見ゆる限り、皇大御神の寄奉り、青海原の、千萬の貢物を積みたる船の棹柁干す間も無く、其の船の先の向ひ到る極み、大海原に間も置かず漕ぎ續けて、皇大御神の寄奉り、陸よ

り往々道は、貢物の荷の緒縛堅めて駄けたる馬の磐根本草履みさくみ往々其の馬の爪の向ひ到る限り、道の長手に断間無く立ち續けて、皇大御神の寄奉り、又狭き國は廣かるべく、峻しき國は平坦なるべく皇大御神の寄奉り、又遠き國の、數條の綱を打ち掛けて、引寄する事の如く、皇大御神の寄奉らばと祈はせ賜へるなり、

馬瓜至 限鹽末至 限、天雲乃可皿立限 依奉 給比、遠 國乎波、千尋田久繩乎 以天、懸依給比、荒 國乎波、太御佩刀以天、平 給比、白雲乃 退居、青雲乃 枯引限、物代 乎 依奉 給比、現立者天止等久、打積者國止等久、谷古久乃 佐 度限、物代乎 依奉 給止 申須(丹生祝詞文)

國者限退立、天雲者限壁立、青雲者限棚曳、白雲者限向伏、日正從、月正横將 聞通焉、陸道者限 馬蹄之所詣、海路者限船艦之所泊、將聞通焉云々、石根木立草之 片葉雖踏碎英、雄聞將死者、一時死之、故雖打置者如國之廣曳立者、如高天、罪無隱 皇通入申(新撰龜相記)

如此 任奉爾 依氏。今 母去前母。天皇我 朝廷乎 平久安久。足

御世為 茂御世 爾 齋奉利。常磐 爾 堅磐 爾 福閉 奉利。預而 仕 奉流。處處 家家 王等 卿 等乎 母 平久。天皇我 朝廷 爾 伊加 志夜久 波 叡能 如久 仕奉利。佐加 叡志 米 賜登(祝詞式)

此の文義は、此の如くして、仕奉るに依りて、現今も將來も大朝廷を平かに安かに、 喪無く事無く、萬事足らひ物備り、厳しく茂しき御世に、齋 鎮め奉り、常磐に、易ら ぬ御世、堅磐に動なき御世に、守 福へ奉り、又、御祭に預りて仕奉れる、處々の官人 家々の王等 卿等をも、障る事無く恙しき事無く、大朝廷に木々の繁榮もるが如 く、立榮え仕奉らるめ賜へと云ふなり

獻 流字豆乃 大幣帛乎、平久所 閉氏、天皇我御世乎 堅磐爾常磐 齋奉利、伊賀志御世爾 幸閉奉氏、萬世爾 御坐令在米給登(祝詞式)

參 集 氏 仕奉、親王等 玉等 臣等、百 官人等毛乎、夜 守日 守爾 守 給比、天皇 我朝廷爾、彌高爾彌廣仁、伊賀志夜具波江能如久、立榮氏令 仕奉 給登(祝詞式)

これらは、本文を略きたるなり

御壽乎手長乃御壽止。湯津如磐村常磐堅磐爾。伊賀志御世爾幸閉給比。阿禮坐皇子等乎毛惠給比。百官人等天下四方國能百姓爾至萬天長平久。作食留五穀乎毛豐爾令榮給比護惠比幸給止(祝詞式)

此の御壽云々の語は、祝詞式の中、いづれにもあるとなく、大嘗鎮魂の詞にさへ見えざるを、此の月次神嘗にのみ此の語あるは、疑しき事なり、よりて、普通に之を移はむには、祈年祭神祇官八座の神等の前に白す詞、また伊勢大御神の大前に白す詞に倣ひて皇御孫命乃御世乎手長乃御世登堅磐爾常磐爾齋奉利茂御世爾幸奉利給比と云ふべし  
今毛往前毛天津日嗣乃高御座爾顯津御神止、大八洲國所知須、皇孫命乃大御世乎、足長乃大御代登、堅石爾常石爾奉齋、嚴之御代乃足之御代爾幸閉給比、食國天下爾道速振

荒振事無次遠伎嶋々遙那支磯乃脚不落、令治坐賜比、親王諸王、諸臣乎始氏、仕止仕布流百官乃人等乎、平那久安那久守賜比、天皇我朝廷爾、茂之八桑枝乃如次、立榮延令仕奉賜比、東乃遠朝廷爾、食國乃事執持豆、政基知賜布、大將軍乃御末波、櫻木乃彌繼繼爾、永久久玖、武支稜威乎、彌高爾彌廣爾耀加之令榮賜比、生坐御子等與利、御族御屬爾至流迄、彌榮爾令榮賜比、此所乎、領須吉田乃城主松平君乃、武支稜威乎、日爾異爾令榮賜比、所治留百姓乎毛、令惠賜比、四方國乃蒼生等、種種乃禍无久、取作留五穀乎始氏、草乃片葉爾至迄、作止作留物等乎、惡風荒水爾不令相賜八束穗乃茂穗爾成幸閉賜比、大神乃、鋪坐須、此鄉爾生出流氏子等乎、无漏事无落事、守賜比、神乃枉事不令有、天乃益人國益人止生出令榮賜比、其持分流家業乃各立榮氏、繼繼爾饒波布地止令成賜比、御社爾奉仕神司等我家内、安久穩爾、諸乃災波、不萌前爾、遠久伊噎拂比賜比、過犯須事乃有乎染、見直之聞直之坐氏、夜乃守日乃守爾、護賜比幸閉賜止、祈白須事乃由乎、平那久安那久聞食受賜閉止(古學諄辭集)

皇御孫之尊乃天御舍之内仁坐須皇神等波荒備給比健  
 備給比崇給事無志氏高天之原爾始志事乎神奈我良毛  
 所知食氏神直日大直日爾直志給比氏自此地波四方乎  
 見霽山川能清地爾遷出坐氏吾地止宇須波伎坐世止(祝  
 詞式)

此の文義は、天皇の大殿の内に坐す神等の、荒び健び崇り給ふ事なを無く、天つ神等  
 の高天原にて、事始め給ひし御制度を神に、坐すまゝに知食て、御心を直し和し給ひ  
 て、此の京よりの遙けき、山川の地を善地として遷り給ひ、其の地を吾が地と領知  
 させ坐して、再、此の地へは、歸り來給ふなど云ふあり

根國底國與里蟲備疎備來物爾相率相口會事無氏下  
 行者下乎守理上往者上乎守理夜之守日之守爾守奉齋  
 奉齋止(祝詞式)

此の文義の、根國底國より、荒び疎び來む妖物に、率り、口會はせ賜ふ事無くはざる  
 妖物の、下より行かむとせば、皇神等の、下の方を守り賜ひ、上より往かむとせば、上  
 の方を守り賜ひ、何方よりも入れじと晝夜間なく、守齋奉り賜へど祈賜ふなり

大宮賣命登御名乎事申波皇御孫命乃同殿能裏爾塞坐  
 氏參入罷出人能選比所知志神等能伊須呂許比阿禮比  
 坐乎言直志和志坐氏皇御孫命朝乃御膳夕乃御膳供奉  
 海比禮懸伴緒纏懸伴緒乎手躡足躡不令爲氏親王諸王  
 諸臣百官人等乎已乖乖不令在邪意穢心無久宮進米爾  
 進宮勤爾勤之米氏咎過在乎波勉直志聞直坐兵平良氣  
 安良氣久令仕奉坐(祝詞式)

此の文義は、此の神の、大宮内に立塞り坐して、出入る人を監察して、其の可否を撰  
 び、荒ぶる神の有らむをば、言直し言和し賜ふを始め大御許に仕奉る伴男等親王

諸王、諸官の人等を一の心に睦和して、過つ事無く漏る、事無く、事美しく  
事幸く、仕奉らしめむと守賜ふ神徳を稱へ奉れるなり

櫛磐 牖 豐 磐 牖 命 登 御 名 乎 申 事 波。四 方 内 外 御 門 爾。如 湯  
津 磐 村 久 塞 坐 氏。四 方 四 角 與 利 疎 備 荒 備 來 武。天 龍 麻 我  
都 比 登 云 神 乃 言 武 惡 事 爾 相 麻 自 許 利。相 口 會 賜 事 無 久。  
自 上 往 波 上 護 利。自 下 往 波 下 護 利。待 防 掃 却 言 排 坐 氏。朝  
波 開 門。夕 波 閉 門 氏。參 入 罷 出。人 名 乎 問 所 知 志。咎 過  
在 乎 波 神 直 備 大 直 備 爾。見 直 聞 直 坐 氏。平 良 氣 久 安 良 氣  
久 令 奉 仕 賜 (祝 詞 式)

此の文義は、此の神の、大宮の四方の御門に立塞り坐して、四方四隅より、荒び疎び  
來む禍事を待防ぎ、又、朝夕の御門の開閉、さては、出入る人々を監察し、咎過あら  
むをば、見直も聞直し賜ひて、事幸く仕奉らしめ賜ふ神徳を稱へ奉れるなり、右の二

文は、本來神徳を稱へ奉れる文なり、されど、之を祈願に轉用すべき文なるより、此  
の條に擧げたるなり、いづれの神の御前にまれ、家内上下相睦び、家の事家の業を、  
彌勤に勤め、彌進に進め、災難を防ぎ幸福を招き、繁榮を祈り奉る祝詞をば、此の二  
文によりて綴り成すべし、但し、御門御膳の御の如き尊稱言、また朝廷へ關する語を  
もは、勤めて省くべきなり

此 乃 敷 坐 大 宮 地。底 津 磐 根 乃 極 美。下 津 網 根。波 府 虫 能 禍  
無 久。高 天 原 波。青 雲 乃 靄 久 極 美。天 乃 血 垂 飛 鳥 乃 禍 無 久。  
掘 堅 多 留 柱 桁 梁 戸 牖 乃 錯 比 動 鳴 事 無 久。引 結 幣 魯 葛 目  
能 緩 比 取 葺 計 魯 草 乃 噪 岐 無 久。御 床 都 比 能 佐 夜 伎。夜 女  
能 伊 須 須 伎。伊 豆 都 志 伎 事 無 久。平 氣 久 安 久 奉 護 留 (祝 詞  
式)

此の文義は、皇神の敷坐す大宮の地下は、底津磐根の極みまで、下津網根を

損ふ事なく、高天原は、青雲の鬪く極まで、天の血垂に飛鳥の疾する事無く、安か  
に平かに護奉り、堀堅めたる柱の動く事無く、柱桁、梁、戸牖の錯の鳴る事無く、平  
かに安にか護奉り、引結べる綱根の緩無く、取替ける草の噪無く、平かに安にか護奉  
り、御床都比の騒さの恙しき事無く、夜目の伊須々伎の恙しき事無く、平かに安かに  
護奉り賜ふと云ふなり

此の文、また、本来室祝の文なり、されども、祈願に轉用すべき文なる故に、此の條に  
擧げたるなり、普通にも、地鎮、新殿の諸祭の祝詞は、此の文体に准據すべし

第三章 文例

年始祝詞

(神事畧)

挂卷母畏伎。某社爾鎮座須。吾皇神乃大前爾。恐美恐美母  
白久。拜發端千歲將經山松乎佐根古士廼根古士廼之氏。五  
百枝刺小竹取添氏。御門爾插立氏。木綿取垂氏。端籠乃素

引延氏(裝束)奉幣帛波。干世乃若水餅鏡和稻麩稻。御酒  
方白木黒木爾。屠蘇酒衰母取竝互。奉留雜物衰。大神心母  
宇良宜。豐明爾所聞食氏(獻供)天日嗣八。日月乃共無動久。  
恒母奉祈天皇命乃太神壽衰。足長乃大御命刀。堅磐爾常  
磐爾幸奉里。親王諸王。諸臣百官人等。此郷乃刀禰男女。天  
下四方國乃公民爾至麻泥爾。平久安久守福反給皮刀(祈  
願)頸根突拔互。新年乃始乃朝日乃豐榮升爾。稱言奉竟刀  
申一結尾

○挂卷母畏伎とは、詞に掛けて申すも恐れあるといふ意なり○千歲將經山松乎佐  
根古士廼根古士廼之氏とは、千年も生榮えて居るべき山の松を根引にしてといふ意  
なり○五百枝刺小竹とは、枝の數の多く、さし出でたる竹をいふ○木綿取垂氏と

は、木綿キムワタを附けて下らるといふ、木綿キムワタの穀カクの木の皮カだて作れるものシラカの端ヘ籠カゴ乃ナ索引シヨクシ延ノ氏ノとい、標繩シメナを引張るをいふ、○和稻ニギシネツラシネ麩ヒ稻イといふ、○精米ヒイマイ粉コといふ、○白木シロキ黒クロ木キとい、白シロ色の酒サケ、黒クロ色の酒サケといふ、○大御心オホミココロ母ハハ宇良ウラ宜イとい、神カミの御心ミココロも愉快ユキクワイに思オモ食シしてといふ意なり、○豊明トヨアカリニ所聞食キコシメシテ氏ノとい、神カミの御顔ミカホも赤アカらむまで、おわがり遊アソばされてといふ意なり、○郷乃サトノ刀ヤ禰ニとい、もとの庄屋シヤウヤ、今の村長ムラナガの如ニきものをいふ、○頸根ツキネ突ツキ拔ツキ豆マメとい、頸ツキを地チに衝ツキ入イる、はと平伏ヘイフクしてといふ意なり

同

(祭文例)

挂卷カケマク毛モ恐カシコ伎キ。吾ワガ大神オホカミ能ノ大前オホマヘ爾ニ。恐カシコ美ミ。恐カシコ美ミ。母ハハ白シロ久ク。發ハツ端ヘ新ニ伎キ。年トシ能ノ新ニ伎キ。月ツキ能ノ新ニ伎キ。日ヒ能ノ朝アサ日ヒ能ノ豊トヨ榮サカ登ノ爾ニ。拜ツカヘ氏ノ。仕ツカヘ奉マツル流ル大オホ。御ミ饌イハ大オホ御ミ酒サケ。皇スメ神カミ能ノ御ミ心ココロ爾ニ。平ヒラ久ク安ヤス久ク。赤アカ丹ニ能ノ穗ホ爾ニ。聞キコシ食シ。登ト白シロ須ス。獻ケル供ケル如此カク。仕ツカヘ奉マツル爾ニ。依ヨリ氏ノ。余イ母ハハ往ユク前マヘ母ハハ。皇スメ御ミ孫ムコ命ノ能ノ御ミ。世ヨ衰ナ。手テ長ナガ能ノ夫オホ御ミ世ヨ。湯ユ津ツ石イ村ムラ。如ニ久ク伊イ波ハ。此コ奉マツル理リ。茂イカシ御ミ。

世ヨ能ノ足タラシ御ミ世ヨ爾ニ。福サキハ閉ヘ。奉マツル理リ。仕ツカヘ奉マツル流ル。親ミコ王オホキミ。諸オホキミ主ミ。諸オホキミ臣ミ。百ヒツ官ツカサヒト。夫オホ等ナチ。衰ナ。彌イ高タカ爾ニ。彌イ廣ヒロ爾ニ。伊イ加カ斯シ八ヤ桑クハ枝エ能ノ如ニ久ク。令タテ立サカエシメ榮サカ給タマヒ氏ノ。天アマ下ノ。四ヨ方ホノ國クニ乃オホ公ミ民タカラ等ナチ。衰ナ。守モリ給タマヒ比ヒ。惠メグ給タマヒ閉ヘ。登ト爾ニ。願カシコ。恐カシコ美ミ。恐カシコ美ミ。母ハハ稱タマヒ。辭ゴト竟ナヘ奉マツラク久ト。登ト白シロ。結ムス尾ビ。拜ツカヘ詞ノ。

○新ニ伎キ月ツキ能ノ新ニ伎キ日ヒとい、一月一日の事にて、新年といふ詞より續けていへるなり、新ニをアマランといふは實は古言に非ず、中古以來の詞なれば、祝詞には好ましからぬと、如此いひても誤といふには非ず、一月一日と書きて、ハシメノツキノハシメノヒと讀むも可なり、○赤丹穗爾聞食とい、前文の豊明爾所聞食といへるにおなじ、○今母往前母とい、目前も今後もといふ意なり、○皇御孫命能御世衰、手長能大御世衰、湯津石村能如久伊波比奉理とい、今上天皇の治め給ふ御代を、長久に動さなき様に御守と下されといふ意なり、湯津石村とい、五百箇磐群の義なり、○茂御世能足御世爾福閉奉理とい、嚴めしく盛なる御代の、物の満ち足りたる御代となる様御守り下されと



唯去意なり○伊加新八桑枝能如久令立榮給比とは、木々の繁り榮ゆるやうに、繁榮  
ならしめ給へといふ意なり

紀元節

(神宮明治祭式)

度會乃宇治乃五十鈴乃川上乃下津磐根爾大宮柱太敷  
立高天原爾千木高知氏皇御孫命乃稱辭竟奉留挂萬久  
毛畏伎天照座皇大神乃大御前乎慎敬比恐美恐美毛白  
左邊拜端高天原爾神留座皇親神漏岐神漏彌命以互皇  
御孫命乃御世御世大八洲國將知次登天津神乃御子隨  
爾玉種乃神寶乎授給比言壽給志任爾敵火乃櫛原乃  
爾天下所知志天皇乃始氏帝位所知食志日登中令乃大  
政道及始爾當氏座波此太祖天皇乃廣休厚伎御德乎重

兼廣美座系奈毛此乃御祭乎與給比永代乃御典奉定  
給備爾任爾今日乃生日乃足日爾齋乃壽辭乎稱辭竟奉  
良久登奏須由緣禮代乃大御食大御酒海川山野乃種々  
及物乎横山乃如久置足波志氏進留狀乎平介久安介介  
所聞爾(獻供)皇御孫命乃大御壽乎手長乃大御壽登常  
磐爾望磐爾齋奉利伊賀志御代爾幸給比阿禮座左坐皇  
子等乎毛惠給比百官人等天下四方國乃公民爾至萬氏  
長久平介久夜守日守爾護惠美幸給倍登(祈願)恐美恐美  
毛申須結尾

○下津磐根爾大宮柱太敷立高天原爾千木高知とは、神殿の柱を、地の底まで、深  
大築立て、神殿の千木を天上まで高くさし出して、高大に堅固に神殿を造り奉り

大蛇の意なり、千木とは、家根の破風の上に、兩股になりて差出でたる木なり○高天原神留坐、皇親神漏岐神漏美命以豆とは、上天に御留り遊ばされたる、天皇の御先祖の神様の勅定にてといふ意なり○畝火乃檣原乃宮爾天下所知志天皇とは、神武天皇の御事なり○齋乃壽辭とは、賀辭の意なり○夜守日守とは、晝夜を分たず御守り下されとの意なり

祈年祭

(祭文例)

掛卷母恐伎吾大神能大前爾恐美恐美母白久拜發端大神  
 冀今日能吉日爾稱辭竟奉良久波大神能氏子袁始馬四  
 方國能百姓等賀手肱爾水沫搔垂向股爾泥搔寄氏取作  
 良牟奧津御年袁惡風荒水爾令相給波受八束穗能茂穗  
 爾成幸閉給地陸田種子等甘菜辛菜爾至流麻傳不成傷  
 布事死羨彌榮爾令榮給比彌足地爾令足給閉登羅龜去

爾御食御酒居竝稱辭竟奉冬登白獻儀挂卷母恐伎  
 神祈白須母驗久神隨成幸閉給波斐初穗袁斐秋祭爾獻  
 幸登(新願)恐美恐美母白給以登白拜發端結尾  
 ○手肱爾水沫搔垂とは、手の肘より、水の泡が垂れるとにて、苗を植るなをする時のさまをいふなり○向股爾泥搔寄氏とは、相向へる兩股に、泥を付るとにて、田の草取などする時の様子をいふなり、此の兩句にて、苗をおろすより刈取るまでの事を含めたる對話なり○奧津御年の、稻なり○八束穗能茂穂とは、幾握みもある長さの熟稔りたる稻穂をいふなり

除蝗祭

(神祭式)

此能祈伊豆能磐境登掃清氏神籬立氏招請奉里令坐  
 奉禱御年神大地主神準御前爾白久拜發端神代乃往昔大  
 地主神御旧作良志時由人爾牛穴乎食給比伎二千時

御年神能御子。其田爾至。御饗爾唾。氏還座。氏父大神。其狀乎告給伎。於是御年神怒座。其營田爾蝗乎放給。其苗葉忽爾枯損。爾篠竹成枯凋。伎故大地主神。巫肱巫乎志。氏占波志米給比志時。是波御年神能崇奈里。故白猪白馬白鷄乎獻。氏其怒乎解給。閉登占相奉伎。故其占相能隨爾行給。布時爾御年神答給。久實爾吾御心奈里。故麻柄乎以互持。爾作氏持。其葉乎以互拂。天押草乎以氏押。烏扇乎以氏扇。仍不去。溝口爾半突乎置。男莖形呼作添乎。蕙子山椒吳桃葉及鹽乎。其畔爾班置給。閉登言。敬悟給伎。是爾大地主神。其敬能隨爾行給。志加波。苗葉復。其穀豐稔。茲由緣。敬此者事。爾依憑。御兼皇神能御前。

爾稍布乎。白猪白馬白鷄。三種能代爾取。易備奉。御祭佳奉。齋狀乎。平久所聞食。氏獻供。蝗能災乎。拂比除伎。奧津御年乎。八束穗能茂穗。爾成幸。閉給。閉登祈願。鹿自物。膝折伏。鹿自物。頸根突拔。氏稱言。竟奉。久登。白結。畢。今。年。六。

○伊豆能磐境。掃清。氏とは、よの所を掃ひ清めて、清淨なる場所としてといふ意なり。磐境は、磐船などの磐にて稱離なり。○神離立。氏招請奉。皇令坐奉。とは、神の鎮坐すべし。御坐を設けて、それに、神様を御招き申してといふ意なり。○神離とは、御室城の義なり。○片巫。肱巫とは、トをする巫の名なり。○麻柄乎。以氏持。爾作。氏持。伎とは、麻柄にて持といふ物を作り、其れにて、蝗を掃ひ落すべしとの意なり。持の糸を巻く道具なり、此より以下四句皆禁厭の術なり。○其葉乎。以氏拂比。とい、麻の葉にて掃ひ落したる蝗を拂ひ取るをいふ。○天押草乎。以氏押。とは、天押草といふ草にて、蝗を田の外へ押出すべしとの意なり。天押草とは、玄參のことなり。○烏扇乎。以氏扇。

那とは、鳥扇といふ草にて、田の外へ押出したる殘の蝗を扇ら出すべしとの意なり、鳥扇は、俗にヒアフギといふものなり○懸子の、俗に四國麥、鳩麥といふものなり  
 ○鹿自物膝折伏とい、鹿は、膝を折りて伏すもの故に、それが様に屈みて拜禮をすとの意なり○鵜自物頸根突抜とい、鵜は、魚を取らむとて、水中に頸を突入る、物故に、その様に平伏してとの意なり

○大祓祝詞

(神社祭式)

掛卷母恐伎。其神社乃御前爾。祠官苗字名恐美恐美毛白左。公拜詞此縣乃官人。又大神爾。仕奉留神官等乎始。皇敷聖觀里々乃公民等。我過犯氣牟雜々乃罪事乎。今年乃六月乃今日乃夕日乃降爾。祓物乎置座爾置弓。祓清奉留事乎。祓處乃神等爾神議々給比。諸人及枉事罪穢乎。祓給比。精給奉止。乞祈奉留事乃由乎。彌高爾聞食世止(祈願)恐美

恐美母白須一結尾

(禰祭式)

○座とは、贖物を載せ置く臺をいふ○彌高爾聞食とは、よく御聞取下されといふ

意なり

宮地鎮謝祭

(祭文例)

掛卷母畏伎。生井神。榮井神。綱長井神。阿須波神。波比岐神。乃大前爾。恐々毛白久。發端皇神等乃敷坐此大宮所乎。今毛往前毛。彌益々爾守。幸給比。千代萬代毛。平久安久。下動美寄來牟地震乃災无久。大雨零利水溢留登毛。大地乃岩崩傷布事无久。堅石爾磐石爾。守給比。幸給比。幣登(祈願)禮代乃幣帛乎捧持比。獻句。恐美恐美母白。結尾

○禮代乃幣帛とは、御禮の捧物といふ意なり、禮代を、禮自、禮自利ともいふなり、

レロは、禰祭りと同語にて、其の物實をいふなり

地鎮祭

(神事略)

此地乎宇斯吐坐須。大地主神。廼御前仁。謹々三母申佐。久  
 拜發詞。此所爾某官位姓名。乃家將作爲氏。由緣句。禮代乃御酒  
 御饌奉置氏。略。獻句。乞祈白事波。此蹈平均須土。乃平可爾。突  
 堅牟累磐根乃。動事無久。此造良牟家廼棟門。廣久高久令  
 榮。炫昆古乃神能。荒昆給事无久。守幸給反刀。乞祈白事乃  
 由乎神隨母所聞食氏。相宇豆那比給反刀。祈願惶々美毛  
 言拜結尾

○炫昆古乃神とは、火の神を申す。○相宇豆那比給反とは、祈り申す事を、神々の御

納要遊ばされよといふ意なり。

念美祠白

(神祭式)

掛卷母畏。客犬地主神。壇山姬神。産並神。御前爾。白茨一。後詞  
 此乃新室敷居牟。此地乎。齋鋤齋鋤乎。取持天。石切平均。地  
 曳平均。掃清氏。作行。家居乃。地登。齋定牟。止爲氏。由緣句。奉留  
 幣帛波。由紀乃。御食。御酒波。饗戸高。知饗腹滿並。野乃  
 物波。甘菜辛菜。青海原乃。物波。鱈廣物。鱈狹物。奥津海菜邊  
 津藻菜。爾至迄爾。如横山置足波。志豆。奉留幣帛乎。安幣帛  
 乃。足幣帛止。皇神乃。御心毛。平介久。所聞食豆。獻供。此乃新  
 壘家地乃。底津磐根乃。極美。下津綱根。波府虫。能禱無。夜  
 守由守爾。護給比。矜美給閉止。祈願。鹿自物。膝打伏。宇自物  
 頸根突拔。豆。稱言竟奉。久止白須。拜結尾

新殿祭

(私祭要集)

此能所爾神籬立氏招奉里令坐奉留挂卷毛畏伎屋船命  
 能御前爾白久拜發端今奥山能大峽小峽爾立留木乎齋斧  
 乎以氏伐取本末乎婆山神爾祭利豆中間乎持出來氏齋  
 鈕乎以氏齋柱立氏作行某能神能天能御翳日能御翳登  
 造仕奉禮留瑞能御殿乎天津奇護言乎以氏言壽鎮白久  
 此能敷坐新官地能底津磐根能極美下津網根波府虫能  
 禍无久高天原波青雲能霏久極美天能千垂飛鳥能禍无  
 久堀堅多留柱桁梁戸隔能錯比動鳴事无久引結倍留網  
 目能緩比取葺留草能噪伎无久御牀都比能佐夜岐夜女  
 能伊須々伎伊豆都志伎事无平久安久奉護留神能御名  
 乎白久屋船久々運命屋船豐宇氣姬命登御名乎蓬網奉

里氏今如此造仕奉禮留御殿乎堅磐爾常磐爾奉護里奉  
 福良須爾依氏神德進留幣帛波由紀能御食御酒波饗能  
 邊高知饗能腹滿雙氏山野能物波甘菜辛菜青海原能物  
 波饗能廣物饗能狹物奥津毛波邊津毛波爾至麻氏爾雜  
 々物乎横山能如久置足波志氏奉留幣帛乎安幣帛能足  
 幣帛登平久所聞食登献供十六自物膝折伏宇事物頸根  
 突拔氏稱言竟奉久登白結尾

○天能御翳日能御翳登造仕奉禮留瑞乃御殿とは、天日を蔽ふ爲に造り仕奉りたる、  
 美麗なる宮殿をいふなり○天津奇祝言乎以氏、言壽鎮白久とは、天上におきて事  
 始め給へる、靈妙なる祝詞を以ちて、屋船の神の、無事に安穩に鎮坐さる事を祝  
 ひ奉るとの意なり○新官地能底津磐根能極美、下津網根波府虫能禍无久とい、地の  
 下の、岩石のある邊にまで結ひ固めたる、床下の綱を、虫の喰損ふ事なるといふ意

なり○高天原波雲能久極美天能千垂飛鳥能禍无久とハ天上ハ蒼空に至るま  
 で高くさし出せる烟出に鳥の禍するとなくといふ意なり○掘堅多留柱桁梁戸  
 腐能錯動鳴事无久とは堅固に掘立たる柱の動くとなくと又桁梁や戸や腐なと  
 の米と木と行合ひたる所の鳴るとなくといふ意なり○引結借網目能緩比取尊會  
 草能曝枝无久とは柱桁なとを結び堅めたる網の緩むとなく屋根を露むたる草の  
 大亂るゝとなくといふ意なり○御牀都比能佐夜岐夜女能伊須々伎伊豆都志伎事无と  
 は晝の間に神殿の御床の邊に物喧しきとの恙懸となく夜眠れを聞は  
 入事人との恙しきとなくといふ意なり  
 遷宮祝詞  
 此能所乎宇斯波伎坐皇神乃御前爾稱言竟奉以耻白須  
 拜端皇神乃志津宮登靜坐本御殿毛璞乃年乃經往波右  
 上希留備荒蕪荒麥里連以道宮地乎掃清蕪下津馨根奉

宮柱汰敷立高丞原年手木高知掃遠世爾神佐備註  
 能御殿社奉支由緣故神籬結固米御船代爾載奉焉天  
 御蔭丹御蔭覆物登箱笠刺羽幸行能道乃守止楯承用矢  
 並焉鳥羽玉能夜吉止火能熟寐爲留亥時爾人垣立焉裝  
 運神主官位姓名皇神乃御尾前爾仕奉畢新宮爾遷奉焉  
 禊行奉眞幣帛波明妙照妙和妙荒妙爾由紀乃御食御酒  
 波履邊高知應腹滿雙豆山野乃物波甘菜辛菜青海原物  
 波饋廣物饋狹物與津海菜邊津海菜爾至迄爾如橫山置  
 足波志豆奉留幣帛乎安幣帛乃足幣帛止平介久所聞食  
 豆(獻供)天地日月止共爾彌遠長久鎮座登(祈願)十六自物  
 膝折伏鵜自物頰根突拔豆稱言竟奉久止白須一結尾

志都宮め、靜かに安かなる宮をいふなり。○躰の、年の枕詞なり。○石上は、布留の枕詞なり。○絹笠の、華蓋にて、絹をもて張りたる傘なり。○刺羽の、團扇の長き者にて、物を蔽ひ隠すものなり。○鳥羽玉の、夜の枕詞なり。○人垣とは、垣のやうに人の並立つをいふなり。○御尾前の、神様の前後のことに、即ち行列の中にて神盤と云たる船代の前と後とをいふなり。

造竟麻石垣祝詞  
 天下所知食兼皇天皇乃御子奈蔭  
 取奉國乎治爲止依左志賜比乃麻爾麻爾夫御身  
 取帶込御軍並乎安登毛比賜比告備國遠言向和賜之  
 與利此處爾神止毛神止伊都波祭禮我武吉備津日  
 命乃大前爾申久一發端中由乃下津岩根爾眞木柱太敷多  
 天細谷刺乃奈我禮爾都友談曉帶乃如久廻津爾瑞能

由由斯久荒奴禮我輩歎愁而國中能人大爾加多良  
 天半波新爾造奴禮行事竟受之是能年乃年已呂在都  
 留乎八多部乃里能龜山道本翁去年乃秋心乎起志豆山  
 田乃邑乃邑長那理之菊池親芳年老天今者間能人邇在  
 邊伊佐奈比須須米奴此親芳老翁此里乃眞野守貞翁鳥  
 羽自警翁止言合勢力乎合世天美麗久造利奉禮里加此  
 須牟也計久其事竟奴流者四人乃翁夜中曉時止休息無  
 久淨明心正直言以而諸人乎伊佐奈布爾依天之皇太禰  
 乃敷座留里能五百里墜事無久民等參來集比眞木佐苦  
 槍乃婦手乎能勢多流舟波棹柁不干海川爾滿都都氣石  
 積多流車者長道無間久立都都兼低麓乃野方廻如橫山



積置<sup>ツクリナシ</sup>。造成<sup>ツクリナシ</sup>多<sup>タ</sup>。故<sup>コ</sup>爾<sup>ニ</sup>奈<sup>ニ</sup>母<sup>モ</sup>在<sup>リ</sup>。滯<sup>ル</sup>溜<sup>ル</sup>由<sup>リ</sup>緣<sup>ニ</sup>如此<sup>ク</sup>。造<sup>ツクリ</sup>成<sup>ナシ</sup>。都<sup>ツ</sup>爾<sup>ニ</sup>。

依<sup>リ</sup>。年<sup>トシ</sup>文<sup>モノ</sup>政<sup>ツク</sup>乃<sup>ハ</sup>元<sup>ハジメ</sup>能<sup>ク</sup>年<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>天<sup>ノ</sup>册<sup>トシ</sup>五<sup>ツ</sup>日<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>日<sup>トシ</sup>乎<sup>カ</sup>。生<sup>ル</sup>母<sup>トシ</sup>能<sup>ク</sup>足<sup>ル</sup>。

正<sup>ツク</sup>撰<sup>ル</sup>定<sup>ム</sup>豆<sup>トシ</sup>。由<sup>リ</sup>貴<sup>ク</sup>能<sup>ク</sup>御<sup>ル</sup>酒<sup>トシ</sup>御<sup>ル</sup>費<sup>トシ</sup>雜<sup>トシ</sup>物<sup>トシ</sup>乎<sup>カ</sup>。皇<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>大<sup>ノ</sup>前<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>置<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>。

波<sup>ハ</sup>射<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>尊<sup>トシ</sup>。供<sup>ル</sup>官<sup>トシ</sup>司<sup>トシ</sup>祝<sup>トシ</sup>部<sup>トシ</sup>等<sup>トシ</sup>言<sup>フ</sup>壽<sup>トシ</sup>由<sup>リ</sup>志<sup>トシ</sup>後<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>宇<sup>トシ</sup>事<sup>トシ</sup>物<sup>トシ</sup>頸<sup>トシ</sup>根<sup>トシ</sup>御<sup>ル</sup>捷<sup>トシ</sup>。

此<sup>ノ</sup>神<sup>トシ</sup>禱<sup>トシ</sup>申<sup>ル</sup>事<sup>トシ</sup>者<sup>トシ</sup>仕<sup>ル</sup>奉<sup>ル</sup>留<sup>ル</sup>吾<sup>トシ</sup>輩<sup>トシ</sup>已<sup>ニ</sup>乖<sup>ル</sup>乖<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>令<sup>レ</sup>在<sup>ル</sup>。護<sup>ル</sup>惠<sup>トシ</sup>比<sup>トシ</sup>幸<sup>トシ</sup>尙<sup>トシ</sup>給<sup>ル</sup>。

嗚<sup>ク</sup>。麟<sup>トシ</sup>石<sup>トシ</sup>垣<sup>トシ</sup>奈<sup>レ</sup>止<sup>ル</sup>。造<sup>ツクリ</sup>留<sup>ル</sup>爾<sup>トシ</sup>物<sup>トシ</sup>賦<sup>トシ</sup>利<sup>トシ</sup>志<sup>トシ</sup>人<sup>トシ</sup>人<sup>トシ</sup>其<sup>ノ</sup>事<sup>トシ</sup>取<sup>ル</sup>志<sup>トシ</sup>四<sup>トシ</sup>人<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>。

參<sup>ル</sup>來<sup>ル</sup>集<sup>ル</sup>比<sup>トシ</sup>之<sup>ノ</sup>民<sup>トシ</sup>乎<sup>カ</sup>。母<sup>トシ</sup>平<sup>ク</sup>氣<sup>トシ</sup>久<sup>ク</sup>木<sup>トシ</sup>綿<sup>トシ</sup>花<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>佐<sup>ル</sup>加<sup>ル</sup>叡<sup>トシ</sup>志<sup>トシ</sup>米<sup>トシ</sup>賜<sup>ル</sup>倍<sup>ル</sup>。

此<sup>ノ</sup>祈<sup>ル</sup>願<sup>トシ</sup>恐<sup>ル</sup>美<sup>トシ</sup>恐<sup>ル</sup>美<sup>トシ</sup>申<sup>ル</sup>拜<sup>ル</sup>結<sup>ル</sup>尾<sup>トシ</sup>。

○黒田廬戸宮爾座豆天下所知食氣留天皇の、孝靈天皇を申す。○御子奈賀良爾と  
 比、皇子にて御座るまゝにといふ意なり。○安登毛比賦比とは、軍勢を引卒てといふ  
 由意。○皇末作書は、檜木の祝詞なり。○和乃檜木とは、檜の假字にて、檜木の檜木

造<sup>ツクリ</sup>成<sup>ナシ</sup>多<sup>タ</sup>。故<sup>コ</sup>爾<sup>ニ</sup>奈<sup>ニ</sup>母<sup>モ</sup>在<sup>リ</sup>。滯<sup>ル</sup>溜<sup>ル</sup>由<sup>リ</sup>緣<sup>ニ</sup>如此<sup>ク</sup>。造<sup>ツクリ</sup>成<sup>ナシ</sup>。都<sup>ツ</sup>爾<sup>ニ</sup>。

○木綿花乃とは、木綿もて作れる花にて、榮の枕詞なり。

(松屋文後集)

我<sup>レ</sup>皇<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>大<sup>ノ</sup>前<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>申<sup>ル</sup>久<sup>ク</sup>一<sup>トシ</sup>拜<sup>ル</sup>發<sup>ル</sup>詞<sup>トシ</sup>御<sup>ル</sup>馬<sup>トシ</sup>屋<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>由<sup>リ</sup>由<sup>リ</sup>志<sup>トシ</sup>久<sup>ク</sup>荒<sup>ル</sup>奴<sup>トシ</sup>流<sup>ル</sup>。

乎<sup>カ</sup>。官<sup>トシ</sup>司<sup>トシ</sup>等<sup>トシ</sup>歎<sup>ル</sup>愁<sup>ル</sup>而<sup>シテ</sup>年<sup>トシ</sup>經<sup>ル</sup>爾<sup>トシ</sup>之<sup>ノ</sup>乎<sup>カ</sup>。今<sup>ノ</sup>年<sup>トシ</sup>此<sup>ノ</sup>國<sup>トシ</sup>能<sup>ク</sup>賀<sup>ル</sup>夜<sup>トシ</sup>郡<sup>トシ</sup>山<sup>トシ</sup>内<sup>トシ</sup>登<sup>ル</sup>。

云<sup>フ</sup>所<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>住<sup>ル</sup>流<sup>ル</sup>中<sup>トシ</sup>西<sup>トシ</sup>恒<sup>トシ</sup>高<sup>トシ</sup>心<sup>トシ</sup>遠<sup>トシ</sup>起<sup>ル</sup>志<sup>トシ</sup>豆<sup>トシ</sup>國<sup>トシ</sup>中<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>人<sup>トシ</sup>諸<sup>トシ</sup>乎<sup>カ</sup>。伊<sup>トシ</sup>佐<sup>トシ</sup>奈<sup>トシ</sup>。

塙<sup>トシ</sup>須<sup>トシ</sup>須<sup>トシ</sup>米<sup>トシ</sup>天<sup>トシ</sup>。遠<sup>トシ</sup>山<sup>トシ</sup>近<sup>トシ</sup>山<sup>トシ</sup>能<sup>ク</sup>大<sup>ノ</sup>木<sup>トシ</sup>小<sup>ノ</sup>木<sup>トシ</sup>乎<sup>カ</sup>。打<sup>ル</sup>伐<sup>ル</sup>採<sup>ル</sup>馬<sup>トシ</sup>持<sup>ル</sup>參<sup>ル</sup>來<sup>ル</sup>豆<sup>トシ</sup>。

神<sup>トシ</sup>稅<sup>トシ</sup>違<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>用<sup>ル</sup>志<sup>トシ</sup>天<sup>トシ</sup>。美<sup>ク</sup>麗<sup>トシ</sup>久<sup>ク</sup>造<sup>ツクリ</sup>理<sup>トシ</sup>奉<sup>ル</sup>利<sup>トシ</sup>奴<sup>トシ</sup>作<sup>ル</sup>行<sup>ル</sup>伊<sup>トシ</sup>登<sup>ル</sup>毛<sup>トシ</sup>以<sup>テ</sup>止<sup>ル</sup>母<sup>トシ</sup>。

勤<sup>ク</sup>。尙<sup>トシ</sup>久<sup>ク</sup>大<sup>ノ</sup>那<sup>トシ</sup>留<sup>ル</sup>功<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>奈<sup>トシ</sup>母<sup>トシ</sup>有<sup>ク</sup>氣<sup>トシ</sup>留<sup>ル</sup>會<sup>ル</sup>會<sup>ル</sup>毛<sup>トシ</sup>毛<sup>トシ</sup>御<sup>ル</sup>馬<sup>トシ</sup>波<sup>トシ</sup>振<sup>ル</sup>立<sup>ル</sup>歌<sup>トシ</sup>。

耳<sup>トシ</sup>。饗<sup>ル</sup>高<sup>トシ</sup>支<sup>トシ</sup>貴<sup>トシ</sup>支<sup>トシ</sup>神<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>祭<sup>ル</sup>禮<sup>トシ</sup>者<sup>トシ</sup>古<sup>トシ</sup>昔<sup>トシ</sup>。舉<sup>ル</sup>秋<sup>トシ</sup>必<sup>ク</sup>牽<sup>ル</sup>立<sup>ル</sup>流<sup>ル</sup>事<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>古<sup>トシ</sup>。

伎<sup>トシ</sup>。祝<sup>ル</sup>詞<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>毛<sup>トシ</sup>御<sup>ル</sup>馬<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>御<sup>ル</sup>鞍<sup>トシ</sup>具<sup>トシ</sup>長<sup>トシ</sup>止<sup>ル</sup>言<sup>フ</sup>支<sup>トシ</sup>然<sup>ル</sup>伊<sup>トシ</sup>倍<sup>ル</sup>婆<sup>トシ</sup>神<sup>トシ</sup>乃<sup>ハ</sup>乘<sup>ル</sup>利<sup>トシ</sup>。

給<sup>ル</sup>布<sup>トシ</sup>物<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>豆<sup>トシ</sup>其<sup>ノ</sup>屋<sup>トシ</sup>母<sup>トシ</sup>夫<sup>トシ</sup>與<sup>ル</sup>會<sup>ル</sup>爾<sup>トシ</sup>波<sup>トシ</sup>思<sup>ル</sup>布<sup>トシ</sup>麻<sup>トシ</sup>自<sup>リ</sup>伎<sup>トシ</sup>事<sup>トシ</sup>爾<sup>トシ</sup>奈<sup>トシ</sup>能<sup>ク</sup>有<sup>ク</sup>。

漢乎。如此造利奉禮。賢者喜志。久與呂許保志。支事。爾有無  
 利。由緣太敷。立志柱乎。御馬能前。足爪後。足爪志。互石根。爾  
 踏墜米。互波。萬千年。爾動事無久。皇大神乃。敷座須地。佐夜  
 宜無久。恒高我壽波。手長乃。壽正。幸倍給比。其家能內。乃人。  
 又恒高爾。伊佐奈波。禮都留。諸人毛。平久安久。此中山乃。松  
 葉奈須。常磐爾。堅磐爾。令榮給倍止。祈願。恐美。恐美。毛申須。  
 拜結尾

○伊登毛以止母は、最最の義なり。○振立留耳能高支貴支神乃祭とは、唯尊之神とい  
 ふ意なり。振立留耳能は、馬の縁語にて、高さといはむ料の序詞なり。○大與會とは、オ  
 ホロカ、ナホサシなどいふ意なり

宮門祭

(祭文例)

挂卷母畏佐。櫛磐。爾神。豐磐。爾神。乃大前爾。恐美。恐美。毛白

久一發端。此御門爾。湯津磐。村乃如塞坐。氏四方四角。從利。疎  
 備荒備來牟。天能麻我。都比登云。神乃言武。惡事爾。相麻自  
 許利。相口會賜事。无久。自上往波。上乎護利。自下往波。下乎  
 護利。待防掃却。言排給。氏朝爾波。御門乎開。夕爾波。御門乎  
 閉。氏參入。罷出入。名乎問。所知志。咎過有牟乎婆。神直日大  
 直日爾。見直聞直坐。氏平久安久。守幸給閉。登祈願。禮代乃  
 幣帛乎捧持。氏略句。恐々毛稱。竟奉久登。白一結尾

○四方四角從利疎備荒備來牟天能麻我都比登云神とは、四方四隅より、惡事を起さむ  
 として、入來る禍神といふ意なり。○相麻自許利、相口會賜事无久とは、禍神に相交  
 りて惡事を働く事なくとの意なり。○待防掃却言排給氏とは、禍神の入來たらん  
 也を待防ぎて追散し、また、言語を以ちて御説退け下されとの意なり。

門神祭

(祝詞初學)

櫛磐鬮命。豐磐鬮命。乃御前爾。恐美。恐美。毛。白。左。久。拜發。詞。端。大。神。乃。夜。波。夜。能。明。流。極。美。日。波。日。乃。暮。留。々。迄。此。禮。乃。門。邊。爾。湯。津。磐。群。乃。如。久。塞。坐。志。氏。惡。事。爾。相。交。古。利。相。口。會。志。米。牟。刀。欲。流。天。之。禍。都。比。又。貨。財。乎。加。蘇。比。奪。波。牟。刀。欲。流。盜。賊。等。我。四。方。四。角。與。利。疎。備。荒。備。來。氏。前。都。戶。爾。伊。行。違。比。後。都。戶。爾。伊。行。違。比。候。波。久。乎。大。神。乃。上。乎。守。利。下。乎。守。利。待。防。岐。掃。却。利。言。排。氣。坐。須。爾。依。里。天。神。德。屋。內。乃。者。等。安。久。穩。爾。在。經。留。事。乎。尊。美。嬉。美。年。每。乃。今。日。乎。吉。日。刀。撰。定。米。氏。御。祭。仕。奉。利。稱。辭。竟。奉。良。久。乎。平。介。久。安。介。久。聞。食。世。刀。感。謝。恐。美。恐。美。毛。白。須。結。尾。拜。詞。

○夜波夜能明流極美日波日乃暮留々迄とは終日終夜の義なり○加蘇比奪波牟刀欲流

掠奪せむといふ意なり○前都戸爾伊行違比後都戸爾伊行違比候波久とは盜賊な  
 の行違ひて、表口裏口より入らむとして伺ふといふ意なり

竈神祭

(私祭要集)

八。十。日。日。波。在。行。毛。今。日。能。生。日。能。足。日。爾。竈。處。爾。奉。齋。留。齋。火。武。主。比。命。庭。火。皇。神。奧。津。日。子。神。奧。津。比。賣。神。等。能。御。前。爾。白。久。拜。發。詞。璞。能。年。立。歸。留。朝。與。里。年。能。終。能。夕。麻。氏。日。爾。異。爾。賜。波。留。天。津。火。能。恩。賴。乎。辱。美。氏。感。謝。奉。留。幣。帛。波。由。紀。能。御。食。御。酒。波。甕。邊。高。知。甕。腹。滿。雙。氏。山。野。物。波。甘。菜。辛。菜。青。海。原。物。波。鱒。廣。物。鱒。狹。物。奧。津。海。菜。邊。津。海。菜。爾。至。麻。氏。爾。雜。々。物。乎。橫。山。能。如。久。置。足。波。志。豆。奉。留。幣。帛。乎。安。幣。帛。能。足。幣。帛。登。平。久。所。聞。食。氏。獻。供。咎。過。在。牟。乎。婆。見。直。

志聞直志坐氏。御心一速備賜婆受。朝食夕食爾幸閉給閉  
登(祈願)十六自物膝折伏。宇事物頸根突拔氏。稱言竟奉久  
登白(結尾)拜詞

○日留異爾は、日々といふに同じ○御心一速備賜婆受とハ、御腹立になりて荒び  
給ふ事のなさやうにといふ意なり

井神祭

(祭文例)

挂卷母畏伎。彌都波能賣神。御井神。鳴雷神乃大前爾。畏美  
畏美毛白久一發端。此御井乎廣久厚久守賜比幸賜比氏。千  
代萬代毛奴流牟事无久。濁留事无久。濁留事无久。淺留事  
无久。和爾水乃甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水乎。彌多爾  
彌廣爾。授賜比與賜比。諸乃穢乎。祓給比清給比。過犯事乃

有牟乎婆。是直聞直坐氏。夜守日守爾。守幸給閉登(祈願)禮  
代乃幣帛乎捧持氏(獻供)恐々毛稱辭竟奉久登白(結尾)拜詞  
○千代萬代母奴留牟事无久、濁留事无久、濁留事无久、淺留事无久とは、千萬年の後と雖  
も、水のぬるみたり、濁りたり、乾き涸れたり、底の淺くなりたりするとなくとの意  
なり、ぬるむは、水の悪くなるをいふなり○和伎水乃甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水とい  
ふも、水をはめていふ詞にて、畢竟善水といふ意なるを、如此語を重ねて唱ふるが、  
古文の體にて、祝詞には此例多し

出船祭

(私祭要集)

此能所爾神籬立氏。招請奉里令座奉留。底筒男命。中筒男  
命。表筒男命。能御前爾白久一發端。今月今日乎。生日能足日  
登齋定氏。船出爲牟乎。大神等能和魂荒魂。此船能舳爾毛  
舳爾毛。神留里宇斯波伎坐氏。棹柁誤多受。大海原波吹風

能荒留事无久。立浪乃騒事无久。水上波地往我如。船上波  
 床爾居如。指寄牟磯乃崎々。漕果牟泊々爾。障留事无久。平  
 久妻久令有通給閉登禱白事乎。柁音能都婆良々々々爾。  
 所聞食登(祈願)十六。自物膝折伏。宇事物頸根突拔氏。稱言  
 竟奉久登白拜詞

○和魂荒魂云云は、神功皇后の御故事に據ていへるなり。○柁音能都婆良々々々爾と  
 は、禱は聞食せとの意なり。柁の船柱にてすれる音の、つばら、い、と聞ゆる故  
 は、つらちのおとの委曲と云ひ係けて枕詞とせり

祈漁祝詞

言幕母綾爾畏伎。吾大神乃御前爾。懼々三母申佐久一拜詞  
 此鄉能漁夫等。聞者海幸失比和備都々居乎。相恤三相慈  
 給比氏大海乃巨口細鱗等。哀追聚米衣。海人等我網子調

(神事略)

反氏引網乃網目不泄。引網乃網手不緩。佐々和々爾命曳  
 揚給伐。荷前方横山乃如久引居置氏奉牟刀(祈願)禮自利  
 乃御幣捧持氏(獻供)祈請奉久刀言一拜詞

○引網乃網目不泄、引網乃網手不緩とは、網の目より魚も脱れず又網の網も緩ずと  
 の意なり。○佐々和々爾命揚給とは、噪々と漁夫ともの喧しく騒ぎて、網を引さ  
 あげて、多く魚を捕らせたまへとの意なり

祈獸獵祝詞

(祝詞初學)

某乃大神乃御前爾。畏美畏美母啓左久一拜詞。大神乃往昔  
 與理吾我地刀。主佩坐須此山爾波。鹿甚多久兵。戴在角波  
 枯木末如志。聚閉留脚波若木原類志。噴介留息波朝霧似  
 世利。故山麓耳家居志氏。山幸得多類獵夫等波。奔火乃玉  
 筒負比氏。胡爾異爾伊行伎狩禮。村母盡流事無久。隨分利

潤乎得都留毛。偏耳大神乃御恩賴耳。由留事刀。嬉美謝保。比乍在來志乎。近伎頃與里。鹿等何方閉加散禮失世氏。終日覓介。拜母其乃乾迹陀爾見衣受。然許多有利志物能。頓爾盡伎奴可久波阿羅自若大神乃御心耳。不志已利給布。事有利氏。隱志給閉留爾加刀。神德獵夫等一同畏懼萬利。大前耳種々乃御饗乎奉利。略句祈白須狀乎憫美給比惠。備給比過犯志氣牟罪咎波。神直日大直日仁見直志聞直志給比氏。往日乃如山幸忒波受。鹿多仁寄志賜波婆志我角波御笠乃林。志我耳波御墨斗。目波真澄鏡。爪波御弓乃。胡毛乎御筆爾製利。皮乎御箱仁覆利。突刀臙刀波御繪林。功為氏。賽乃禮代爾奉良牟登申須事乎。平介久安介久聞。

食兵乞乃隨爾幸閉給閉刀。祈願畏美畏美毛啓須結尾。

○奔火乃玉筒との鐵砲の事なり、此器の和名無くして國語にいふ事甚困難なるを、先かくいひて文をなせるなり○不志已利給との、憤り給ふをいふ○乾迄との、カラアトにて獸の足跡をいふなり○御笠乃林との、御笠の飾にするとなり、ハヤシハ令榮といふ義なり

祈雨祭

(神祭式)

此里乃宇夫須那神止持崇久。掛麻久毛畏支皇神乎奉始。高靈神。闇靈神。天水分神。國水分神。天久比奢母知神。國久比奢母知神。天津神千五百萬。國津神千五百萬。乃皇神等乃御前爾白久。拜發端此頃久久雨降受日乃累禮婆殖志田。毛詩志。蟲毛。瀧美。枯奈牟止為賀故爾。百姓等憂左麻與比。

世武爲便不<sub>レ</sub>知。仰<sub>レ</sub>待天津水乎。大神等相宇豆能比給<sub>レ</sub>。高山乃未短山乃未與里。雨雲立保備古里。光神鳴波多多。伎氏速雨頻爾令降<sub>レ</sub>。貯留端山乃池波堤爾堪間。塞上氏麻加須流水波田每爾滿<sub>レ</sub>。百姓乃作止作物波。五穀乎始<sub>レ</sub>。草乃片草爾至万氏。成幸閉給倍止。禱白須事乎。進留黑馬乃耳彌高爾所聞食止(祈願)恐美恐美毛白須(結尾)拜詞

○雨雲立保備古理とは、黒雲の空一面に立廣がるをいふなり○光神鳴波多多伎氏とい、雷のころくと鳴るをいふなり

祈晴祭

(神祭式)

此里乃宇夫須那神止持崇久。挂乃久毛畏支皇神乎始奉<sub>レ</sub>。運高禰神。閻霧神。天水分神。國水分神。天久比奢母智神。國

久比奢母智神。天津神千五百萬。國津神千五百萬。乃皇神等乃御前爾白<sub>レ</sub>。久<sub>レ</sub>拜發詞。此頃雨雲久久覆比霖雨降<sub>レ</sub>。高山乃未短山乃未與里。佐久那太理爾落瀧都川乃瀨溢<sub>レ</sub>。百姓乃作止作物波。五穀乎始<sub>レ</sub>。草乃片葉爾至万氏。不生傷<sub>レ</sub>。間留<sub>レ</sub>。實故爾。百姓等憂歎伎氏。寐毛不安。佐麻與比有乎。大神等相宇豆那比給<sub>レ</sub>。雨雲乎科戸<sub>レ</sub>。亦風乃氣吹掃<sub>レ</sub>。天津日乃伊照徹良志。百姓乃作止作物波。五穀乎始<sub>レ</sub>。草乃片葉爾至万氏。成幸閉給<sub>レ</sub>。閉止禱白須事乎。進留白馬乃耳彌高爾所聞食止(祈願)恐美恐美毛白須(結尾)拜詞

拜藥神祝詞

(鈴屋集)

災<sub>レ</sub>。穴<sub>レ</sub>。牟<sub>レ</sub>。遲<sub>レ</sub>。命<sub>レ</sub>。少<sub>レ</sub>。名<sub>レ</sub>。毘<sub>レ</sub>。古<sub>レ</sub>。那<sub>レ</sub>。命<sub>レ</sub>。二<sub>レ</sub>。柱<sub>レ</sub>。大<sub>レ</sub>。神<sub>レ</sub>。乃<sub>レ</sub>。大<sub>レ</sub>。前<sub>レ</sub>。瀨<sub>レ</sub>。姓<sub>レ</sub>。名<sub>レ</sub>。恐<sub>レ</sub>。美

恐美母白久カシコミモ拜發ヒトサガ詞遠津神代爾二柱相並トホツカミニ終志氏御心乎合ハシ  
 世賜比御力乎合世賜比諸共爾大八州國修理堅米賜比セホトモニ  
 國作坐大神登稱辭竟奉大神等諸乃病乎治率流藥乃方クニツクリマシ  
 乎母始賜比定賜比天下爾所有流顯見青人草乃苦瀨爾ナモト  
 落馬阿都迦比惱乎助賜比救賜閉娑神德此某等我醫オキ  
 藥乃業母大神等乃米具美賜比知波比將賜御靈爾依氏イリ  
 志過都事無久驗波將有澄廣伎厚伎恩賴乎恐美恐美母カシコミ  
 歡奉理宇禮志美奉流登（感謝）姓名恐美恐美母白（結尾）  
○顯見青人草は、人類の意なり、人の神と異なりて現に見ゆるもの故に云へるなり。○阿都迦比は、病み苦し意なり。  
 八州皆備津神世例祭（松屋文後集）

中山乃此美豆山能麓乃磐根爾宮柱太敷並高天原爾千  
 本高知流吉備津官乎常宮止定賜比互神長柄神佐備鎮  
 毛里座須我皇大神乃大前爾稱辭竟奉流一拜發詞倭文手纏  
 數爾母不在某我言麻久毛綾爾恐計度皇大神乃御名後  
 比古伊佐勢理毘古命亦御名乎大吉備津日子命止申故  
 者針間能氷河乃前爾忌翁居互天地乃神爾乞禱賜比針  
 間乎道日止為互此吉備國乃荒夫流神不奉仕人乎言向  
 和賜波武止天皇乃御子奈賀良所念看互御腰爾太刀取  
 佩志御手爾弓取持之軍士乎率伊佐奈比氏背向奉流者  
 乎擊賜比和賜布佐麻波斜戸之風爾天雲乃晴留事能如  
 以朝日之影爾露霜能消留事能如久爾奈母有祁流其御



功爾與利天稱奉里。大吉備津日子命止申爾奈世神德。如是有婆古昔與利。朝廷爾波。神靈乎奉請良倍賜比。齋比賜比伊都支賜比。東國乃大城爾座。天下申賜布大。臣命波。御刀代田乎寄奉理賜比。豆(感謝)官司祝部等爾。御祭乃神事乎伊曾之美。奈息利會止。告賜布廣支厚支命乎。頂爾受賜利恐美持。坂樹葉奈須年中乃繁支神事。無緩息。此九月乃中申日者。殊爾伊都支奉流日爾之有禮。婆祖名繼。豆奉仕留官人乎。三爾別。豆神遊爲流。歌人乃登。毛婆大前爾。並居。豆未通女乃舞能袖返。須返。須毛歌宇多。比。御膳人乃登。毛波。木綿手次可比。奈爾懸而。白酒黑酒。荒稻和稻。爾海川野山。爾生流種種。乃物乎取添。置高成流。御

机阿麻多捧氣。白幣帛青幣帛乎持。參來集比。今群能官人者。御横刀御弓御梓奈爾。登乃神寶。數々持參利。豆貢理。御馬率立。豆大御祭仕奉里。奴一獻供如此。仕奉爾依。豆今母去前母。天皇我朝廷乎始。大城爾座。須大臣命乎母。平久安久。山松之根乃遠久。堅磐爾常磐爾。福閉奉利賜比。天下四方國佐耶宜無久。仕奉留官人等乎母。事無久喪無久。護利惠美賜倍登祈願。某等諸共爾。阿布藝乞乃美。布之豆額都枳。恐美恐美。毛申給波。久止申。結尾拜詞。

○倭文手廻は、敷の枕詞なり。○忌食居豆は、清淨なる酒藝を、地に、堀居てといふ意なり。○佐耶宜無久は、騒々敷となくといふ意なり。

砥鹿神社例祭

(古學諄辭集)

參河國寶飢郡一宮村乃底都岩根爾宮柱太知立互鎮座  
 坐須砥鹿大神乃宇頭乃御前爾官位姓名慎美敬比恐美  
 悉美毛申佐久拜發端大奈牟智大神止御名波白之互稱辭  
 竟奉流神乃命波之毛神代乃始乃時須佐之男命乃御詔  
 乃隨爾彼大神乃生大刃生弓矢乎以互御庶兄弟奈流八  
 十神乃荒振神乎追撥比賜比打誅米賜比氏國造始米賜  
 比又皇產靈神乃勅爾依互其神乃長子爾坐須少名毘古  
 那神止御兄弟止成坐氏御心乎睦比御力乎合世坐氏國  
 巡作堅米賜比伊那那岐神乃真名兒熊野加夫呂岐奇御  
 氣野命乃依佐之賜比授那賜閉流五百津鉏乃神鉏乎取  
 持賜比返葦薦菅乎殖荏之互水月如須浮漂布國地乎望

米作利賜比由御神乃常世國爾渡利坐之後波和魂犬物  
 主神止相共爾廣彖乎御杖止爲突互國巡賜比豐葦原中  
 國乎悉爾順從閉賜比互宇之波伎坐爾依互大國主神止  
 白之又國作大名牟智神止白之又顯國玉神止白之又大  
 名持神止御名爾貢麻之又千劍破荒振神言問布岩根木  
 根青冰沫乃類乎平和之賜比令言止賜比不降伏惡支  
 神不和親穢伎鬼等乎討誅米賜比追攘比坐互武支強支  
 御穢威座坐爾依互葦原醜男神止白之又八千矛神止毛  
 稱白世理又愛之伎蒼生乃病乎憐美賜比互少名毘古那  
 神止議坐氏藥湯乃道止病乎療須流方止乎始賜比飛禽  
 走獸昆蟲乃灾乎攘止互爲互其咒乃法乎定賜比伎是乎

以<sup>モ</sup>遜<sup>チ</sup>百姓<sup>タカ</sup>等<sup>トモ</sup>今<sup>イマ</sup>爾<sup>ニ</sup>至<sup>イダ</sup>流<sup>ル</sup>迄<sup>マ</sup>其<sup>ソノ</sup>恩<sup>ニ</sup>賴<sup>リ</sup>乎<sup>ナ</sup>蒙<sup>カ</sup>利<sup>リ</sup>奉<sup>リ</sup>利<sup>リ</sup>又<sup>マ</sup>高<sup>カ</sup>皇<sup>ノ</sup>產<sup>ス</sup>靈<sup>ビ</sup>  
 神<sup>カミ</sup>天<sup>アメ</sup>照<sup>ヲス</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>詔<sup>コト</sup>以<sup>チ</sup>兵<sup>ヲ</sup>皇<sup>スメ</sup>美<sup>ミ</sup>麻<sup>マ</sup>命<sup>ミコト</sup>乎<sup>ナ</sup>天<sup>アメ</sup>降<sup>クダシ</sup>令<sup>マサ</sup>坐<sup>セ</sup>卒<sup>ム</sup>止<sup>ト</sup>爲<sup>シ</sup>  
 賜<sup>タマフ</sup>布<sup>フ</sup>時<sup>トキ</sup>先<sup>マツ</sup>經<sup>ツ</sup>津<sup>ツ</sup>主<sup>ヌシ</sup>神<sup>カミ</sup>武<sup>タケ</sup>甕<sup>ツツ</sup>槌<sup>ツチ</sup>神<sup>カミ</sup>二<sup>フタ</sup>柱<sup>ハシラ</sup>神<sup>カミ</sup>乎<sup>ナ</sup>下<sup>タ</sup>之<sup>シ</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>大<sup>オホ</sup>神<sup>カミ</sup>  
 爾<sup>ニ</sup>間<sup>マ</sup>之<sup>シ</sup>賜<sup>タマフ</sup>波<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup>汝<sup>ナ</sup>我<sup>ガ</sup>宇<sup>ウ</sup>斯<sup>シ</sup>波<sup>ハ</sup>祁<sup>ケ</sup>流<sup>ル</sup>葦<sup>アシ</sup>原<sup>ハラ</sup>中<sup>ナカ</sup>國<sup>クニ</sup>波<sup>ハ</sup>我<sup>ガ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>之<sup>シ</sup>所<sup>シ</sup>  
 知<sup>ル</sup>國<sup>クニ</sup>此<sup>コト</sup>言<sup>コト</sup>寄<sup>ヨ</sup>之<sup>シ</sup>賜<sup>タマフ</sup>問<sup>ヘ</sup>理<sup>リ</sup>御<sup>ミ</sup>勅<sup>コト</sup>乃<sup>ノ</sup>任<sup>ニ</sup>奉<sup>ル</sup>良<sup>ク</sup>牟<sup>ム</sup>邪<sup>ヤ</sup>止<sup>ト</sup>問<sup>マ</sup>之<sup>シ</sup>賜<sup>タマフ</sup>此<sup>コト</sup>志<sup>シ</sup>  
 時<sup>トキ</sup>爾<sup>ニ</sup>恐<sup>カシ</sup>之<sup>シ</sup>詔<sup>ミコト</sup>乃<sup>ノ</sup>隨<sup>フ</sup>此<sup>コト</sup>葦<sup>アシ</sup>原<sup>ハラ</sup>中<sup>ナカ</sup>國<sup>クニ</sup>波<sup>ハ</sup>獻<sup>ス</sup>良<sup>ク</sup>牟<sup>ム</sup>吾<sup>ウ</sup>避<sup>サ</sup>奉<sup>ル</sup>良<sup>ク</sup>婆<sup>バ</sup>誰<sup>タレ</sup>可<sup>カ</sup>  
 毛<sup>モ</sup>麻<sup>マ</sup>都<sup>ツ</sup>漏<sup>ロ</sup>波<sup>ハ</sup>奴<sup>ヌ</sup>者<sup>ヲ</sup>有<sup>ル</sup>牟<sup>ム</sup>吾<sup>ウ</sup>兒<sup>コ</sup>等<sup>トモ</sup>百<sup>ヒャク</sup>八<sup>ハチ</sup>十<sup>ジュウ</sup>神<sup>カミ</sup>波<sup>ハ</sup>八<sup>ハチ</sup>重<sup>ジュウ</sup>言<sup>コト</sup>代<sup>ト</sup>主<sup>ヌシ</sup>神<sup>カミ</sup>  
 神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>尾<sup>ビ</sup>前<sup>マエ</sup>止<sup>ト</sup>成<sup>ナリ</sup>豆<sup>マ</sup>仕<sup>ツカ</sup>奉<sup>ル</sup>良<sup>ク</sup>婆<sup>バ</sup>違<sup>ガ</sup>布<sup>フ</sup>神<sup>カミ</sup>波<sup>ハ</sup>有<sup>ル</sup>良<sup>ク</sup>自<sup>ジ</sup>吾<sup>ウ</sup>所<sup>シ</sup>知<sup>ル</sup>顯<sup>アラ</sup>  
 明<sup>ハ</sup>事<sup>コト</sup>波<sup>ハ</sup>皇<sup>スメ</sup>美<sup>ミ</sup>麻<sup>マ</sup>命<sup>ミコト</sup>所<sup>シ</sup>治<sup>シ</sup>賜<sup>タマフ</sup>問<sup>ヘ</sup>我<sup>ガ</sup>波<sup>ハ</sup>隱<sup>カケ</sup>氏<sup>シ</sup>幽<sup>カク</sup>冥<sup>ミ</sup>事<sup>コト</sup>乎<sup>ナ</sup>將<sup>シ</sup>治<sup>ム</sup>止<sup>ト</sup>白<sup>マシ</sup>  
 賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>大<sup>オホ</sup>八<sup>ハチ</sup>洲<sup>シュ</sup>國<sup>クニ</sup>現<sup>ア</sup>事<sup>コト</sup>顯<sup>アラ</sup>事<sup>コト</sup>避<sup>サ</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>皇<sup>スメ</sup>美<sup>ミ</sup>麻<sup>マ</sup>命<sup>ミコト</sup>乃<sup>ノ</sup>鎮<sup>シ</sup>利<sup>リ</sup>坐<sup>マ</sup>  
 牟<sup>ム</sup>犬<sup>イヌ</sup>和<sup>ニ</sup>國<sup>クニ</sup>止<sup>ト</sup>白<sup>マシ</sup>賜<sup>タマフ</sup>豆<sup>マ</sup>已<sup>レ</sup>命<sup>ミ</sup>乃<sup>ノ</sup>和<sup>ニ</sup>魂<sup>タマ</sup>乎<sup>ナ</sup>八<sup>ハチ</sup>咫<sup>シ</sup>鏡<sup>カガミ</sup>爾<sup>ニ</sup>取<sup>リ</sup>託<sup>ク</sup>焉<sup>ナ</sup>倭<sup>ヤマト</sup>犬<sup>イヌ</sup>

物<sup>モノ</sup>主<sup>ヌシ</sup>櫛<sup>シ</sup>庭<sup>ニ</sup>玉<sup>タマ</sup>命<sup>ミコト</sup>止<sup>ト</sup>御<sup>ミ</sup>名<sup>ナ</sup>乎<sup>ナ</sup>稱<sup>ヘ</sup>豆<sup>マ</sup>大<sup>オホ</sup>三<sup>サン</sup>輪<sup>リン</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>奈<sup>ナ</sup>備<sup>ヒ</sup>爾<sup>ニ</sup>命<sup>ミ</sup>坐<sup>マ</sup>味<sup>ミ</sup>  
 藉<sup>ス</sup>託<sup>ク</sup>彦<sup>ヒコ</sup>根<sup>ネ</sup>神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>靈<sup>タマ</sup>乎<sup>ナ</sup>葛<sup>カ</sup>城<sup>シロ</sup>乃<sup>ノ</sup>鴨<sup>カモ</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>奈<sup>ナ</sup>備<sup>ヒ</sup>爾<sup>ニ</sup>坐<sup>マ</sup>世<sup>セ</sup>言<sup>コト</sup>代<sup>ト</sup>主<sup>ヌシ</sup>  
 神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>靈<sup>タマ</sup>乎<sup>ナ</sup>宇<sup>ウ</sup>那<sup>ナ</sup>提<sup>テ</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>奈<sup>ナ</sup>備<sup>ヒ</sup>爾<sup>ニ</sup>坐<sup>マ</sup>世<sup>セ</sup>賀<sup>カ</sup>夜<sup>ヤ</sup>奈<sup>ナ</sup>流<sup>ル</sup>美<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>  
 靈<sup>タマ</sup>乎<sup>ナ</sup>飛<sup>ア</sup>鳥<sup>カ</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>奈<sup>ナ</sup>備<sup>ヒ</sup>爾<sup>ニ</sup>命<sup>ミ</sup>坐<sup>マ</sup>天<sup>アメ</sup>神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>命<sup>ミ</sup>乃<sup>ノ</sup>近<sup>チ</sup>支<sup>キ</sup>守<sup>モリ</sup>神<sup>カミ</sup>  
 止<sup>ト</sup>貢<sup>タマフ</sup>奉<sup>ル</sup>置<sup>キ</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>又<sup>マ</sup>其<sup>ソノ</sup>平<sup>ヘ</sup>國<sup>クニ</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>之<sup>シ</sup>時<sup>トキ</sup>爾<sup>ニ</sup>所<sup>シ</sup>杖<sup>ツツ</sup>賜<sup>タマフ</sup>閉<sup>ヘ</sup>流<sup>ル</sup>廣<sup>ヒロ</sup>乎<sup>ナ</sup>  
 經<sup>ツ</sup>津<sup>ツ</sup>主<sup>ヌシ</sup>神<sup>カミ</sup>武<sup>タケ</sup>雷<sup>カミ</sup>神<sup>カミ</sup>爾<sup>ニ</sup>授<sup>ツク</sup>祁<sup>ケ</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>白<sup>マシ</sup>賜<sup>タマフ</sup>波<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup>吾<sup>ウ</sup>此<sup>コト</sup>乎<sup>ナ</sup>以<sup>チ</sup>兵<sup>ヲ</sup>  
 卒<sup>ム</sup>爾<sup>ニ</sup>治<sup>ム</sup>功<sup>コト</sup>乎<sup>ナ</sup>成<sup>ナリ</sup>世<sup>セ</sup>利<sup>リ</sup>皇<sup>スメ</sup>美<sup>ミ</sup>麻<sup>マ</sup>命<sup>ミコト</sup>此<sup>コト</sup>乎<sup>ナ</sup>以<sup>チ</sup>豆<sup>マ</sup>國<sup>クニ</sup>治<sup>ム</sup>賜<sup>タマフ</sup>波<sup>ハ</sup>婆<sup>バ</sup>必<sup>ズ</sup>幸<sup>キ</sup>  
 久<sup>ク</sup>坐<sup>マ</sup>牟<sup>ム</sup>止<sup>ト</sup>白<sup>マシ</sup>給<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>又<sup>マ</sup>岐<sup>フナ</sup>神<sup>カミ</sup>波<sup>ハ</sup>吾<sup>ウ</sup>爾<sup>ニ</sup>代<sup>ト</sup>豆<sup>マ</sup>可<sup>カ</sup>奉<sup>ル</sup>仕<sup>ツカ</sup>止<sup>ト</sup>二<sup>フタ</sup>柱<sup>ハシラ</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>  
 爾<sup>ニ</sup>進<sup>ス</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>即<sup>ツ</sup>躬<sup>ミツ</sup>端<sup>ハ</sup>之<sup>シ</sup>八<sup>ハチ</sup>尺<sup>サカ</sup>瓊<sup>ニ</sup>乎<sup>ナ</sup>披<sup>ヒ</sup>豆<sup>マ</sup>八<sup>ハチ</sup>雲<sup>クモ</sup>立<sup>タツ</sup>出<sup>イ</sup>雲<sup>クモ</sup>國<sup>クニ</sup>奈<sup>ナ</sup>  
 流<sup>ル</sup>八<sup>ハチ</sup>百<sup>ヒャク</sup>米<sup>メ</sup>杵<sup>シ</sup>築<sup>ツク</sup>宮<sup>ミヤ</sup>爾<sup>ニ</sup>長<sup>ナガ</sup>爾<sup>ニ</sup>隱<sup>カケ</sup>鎮<sup>シ</sup>座<sup>マ</sup>坐<sup>マ</sup>支<sup>キ</sup>神<sup>カミ</sup>德<sup>トク</sup>如<sup>カ</sup>此<sup>コト</sup>是<sup>シ</sup>國<sup>クニ</sup>土<sup>ツチ</sup>造<sup>ツク</sup>  
 利<sup>リ</sup>固<sup>カ</sup>米<sup>メ</sup>賜<sup>タマフ</sup>比<sup>ヒ</sup>之<sup>シ</sup>御<sup>ミ</sup>勳<sup>イサ</sup>功<sup>コト</sup>乃<sup>ノ</sup>大<sup>オホ</sup>奈<sup>ナ</sup>流<sup>ル</sup>止<sup>ト</sup>目<sup>メ</sup>爾<sup>ニ</sup>不<sup>ス</sup>見<sup>ミ</sup>幽<sup>カク</sup>事<sup>コト</sup>乃<sup>ノ</sup>機<sup>ハシ</sup>原<sup>ハラ</sup>

乎總知利賜布御恩賴乃忝支止波言麻久毛更世自古皇  
 我大朝廷乎奉守奉助天下乃蒼生乎撫賜比惠賜布高  
 或遺支恩賴乃大座坐坐依互後藤原宮爾馭寓天皇乃  
 御代爾御田地奉利賜比神事仕奉賜之自利天皇我御世  
 乃繼繼久之支世世乎歷互無絕事无闕事神事仕奉來互  
 東乃遠朝廷滿天下乃大政聞食須御世止成互毛御戸  
 代多爾寄佐之賜閉婆神官等我家門無荒事宇麻波利榮  
 互古乃法乃隨爾无違事无漏事御祭仕奉牟止爲互(感謝)  
 此五月乃初四日乎生日乃足日止隨例齋定氏神主乎  
 始返神官等各大海乃清支渚爾身滌祓之伊豆乃眞屋爾  
 忌許毋利互大前爾來入集互捧奉流物等波新磨乃米以

皇燃神流御饌乎彼方乃野乃上爾生流薄以互包作禮流  
 御稼歌比都々舞比都々造利仕奉禮流一夜酒止乎各  
 持寄利滿並倍獻利置由志利伊豆志利奉齋狀乎神隨  
 所知看馬獻流多米都物乎安幣帛乃足幣帛止平祇久安  
 神久聞食受賜比互(獻供)今毛往前毛天津日嗣乃高御座  
 爾顯津御神止大八洲國所知須皇孫命乃大御世乎足長  
 乃大御代止堅石爾常石爾奉齋嚴之御代乃足之御代爾  
 幸閉賜比食國天下爾道速振荒振事無久遠伎島島遙那  
 支磯乃岬不落令治坐賜比親王諸王諸臣乎始氏仕止仕  
 布流百官乃人等乎平那久安那久守賜比互天皇我朝廷  
 爾茂之八桑枝乃如久立榮延令仕奉賜比東乃遠朝廷爾

食國乃事執持。政若知賜布大將軍乃御未波。樛木乃彌  
 繼繼爾。永久久玖。武支稜威乎。彌高爾。彌廣爾。輝加之令榮  
 賜比。生坐御子等與利。御族御屬爾。至流迄。彌榮爾。令榮賜  
 比。此所乎領須吉田乃城主松平君乃武支稜威乎。日爾異  
 爾。令榮賜比。所治留百姓乎。毛令惠賜比。四方國乃蒼生等。  
 種種乃禍无久。取作留五穀乎。始氏草乃片葉爾。至迄作  
 止作留物等乎。惡風荒水爾。不令相賜。八束穗乃茂穗爾。成  
 幸開賜比。大神乃鋪坐須。此鄉爾。生出流氏子等乎。无漏事  
 无落事。守賜比。矜賜比。枉神乃枉事。不令有天乃益人  
 國益人止。生出令榮賜比。其持分流家業乃各立榮氏。繼  
 繼爾。饒波布地止。令成賜比。御社爾。奉仕神司等。我家內安

久穩爾。諸乃災波。不崩前爾。遠久伊噴拂地。賜比。過犯須事  
 乃有乎婆。見直之聞直之坐氏。夜乃守日乃守爾。護賜比。奉  
 閉賜。閉止。祈白須事乃由乎。平祢久安。祢久聞食受賜。閉止  
 (祈願)鹿自物膝折伏世。鶴自物頸根突拔互。恐美恐美。毛白  
 須結尾

須結尾

辭別氏白佐久。略發端今日乃神事爾。仕奉流。神主祝等與利  
 始氏。村內乃氏子。里里乃百姓等。總互此齋場爾。參入集氏。  
 大神乃御德乎。仰奉利。恩賴乎。乞祈奉流。人共波。各荒忌  
 真名忌之互。忌清回利都禮。村百千千乃人乃參集波。禮留  
 中爾波。不慮穢。不思過有止毛。神直毘大直毘爾。見直之聞  
 直之坐氏。答賜布事毛。無久。崇賜布事毛。无久。夜乃守日乃

守爾。守利賜比。幸開賜閉止(祈願)畏美畏美毛白須結尾

○宇頭乃御前は、貴き御前といふ意なり ○眞名兒は、最愛子の義なり ○五百津鉏乃

神鉏は、五百挺の鉏の意なり ○常世國は、外國をいふなり ○八咫鏡の、徑の彌咫

のある鏡といふ意なり、咫の、片手の廣さといふ ○大三輪乃神奈備の、大三輪の神社

の意なり ○瑞乃八尺瓊の、瑞は、美麗の義にて、八尺瓊の玉の美稱なり

山室山神社大祭 (秋屋交草)

神風乃伊勢國豐御食乃飯高郡乃此松坂乃里近伎岡本  
乃清伎地爾眞木柱保米豆祝比豆御稜威乃高知留宮刀  
仕奉禮留山室山神社乃宇豆乃御前爾畏美拜美毛白佐  
久一發端掛卷母畏伎天神諸乃大命以豆伊邪那岐伊邪那  
美宜柱命爾事依志賜比二柱大神神議々里賜比豆國生  
成修理固米賜比神生成事始米賜比之此天下爾所在百

凡十國乃國乃本國刀我大日本是乃大八洲國波素毛神  
漏岐神漏美乃命以豆皇孫命乃御代乃繼々天地乃牟多  
無究爾知佐牟國刀大御手豆加良大御璽乃神寶乎毛授  
氣事保賀比定米賜比之隨々久方乃安乃河水流禮豆清  
久唯一筋爾受傳坐須高御座高伎貴伎天津日繼乃御傳  
詔乎始米豆上古乃事乃條々書記之多留書乃卷々讀明  
之說辨布留石上古事學乃道波志毛水鳥乃羽倉夫人伊  
稻荷山嶺乃矛楯高久嚴志久言論比坐氣留乎水莖乃岡  
部大人伊其心乎受繼之引馬野乃小野乃榛原深久廣久  
說明志賜比之學乃統毛彌々太久益々明氣久成行久時  
來向布乃大御神乃鎮坐須此神風乃伊勢國與里我秋津

彦美豆櫻根大人命伊世爾所顯坐立神路山深久遠久道  
乃奧處乎認米明之五十鈴川清久佐夜氣久倭心乃真乃  
旨乎說定米賜比之爾依豆古曾神乎敬比天皇乎尊毘我  
國乎重美須留真心乃雄心振起須人々毛國々爾出來爾  
氣禮其學乃道爾勤志美勞久人々多那里之中爾毛神靈  
眞柱大人命波其靈乃眞柱乎太久嚴志久突立其學乃道  
乎毛彌張爾彌廣爾漢土印度乃書乃卷々乎佐閉繰返志  
讀豆世乃人乃惑閉留心乃雲霧乎級戸乃風成伊吹伎放  
知雄誥爲都々導久說志氣留乎以豆劍太刀稜威乃利心  
乎振起志言論布人々盛爾成來多留後遂爾明治乃此新  
乃大御世刃成豆大人等乃年來慨美歎伎賜比之御心毛

青雲乃綠乃空爾登留日乃限無久伊照曜久世乃成豆波  
其年頃乃勳績毛所顯之乃美爾非受畏伎大命以豆正四  
位乃位乎贈里賜比又幣帛代乃金乎賜比此神社乎改米  
造留事爾依豆毛物多爾賜比之事等波大人等乃神靈毛  
天翔里國翔里畏美與呂許保比御心足比爾所念志氣在  
神德如此良是乃神社毛仕奉里竟奴留乎以豆其神靈乎  
遷志齋比奉里之日乎生日乃足日乃大御祭日止定米之  
例乃隨々九月二十六日乃今日乃朝日乃豐榮登爾神官  
等諸集侍里豆由緣幣帛波照妙明妙爾豐御饌豐御酒海  
川山野乃机代物乎横山成置足波之捧奉里是乃三重縣  
乃官人乎始米豆郡長市長及御社乃事爾勤志美勞氣留

人々波更那里遠伎近伎所々乃人等伊群集比或波思布  
 意乎歌比言舉或波狀々那留和射袁伎乃遊爲豆賑毘樂  
 美合御事狀乎母御心母穩爾聞食豆獻供掛卷毛畏伎皇  
 大御代乎彌真盛爾立榮衣坐志米奉里我御國乃御稜  
 威乎彌高爾曜加志米奉里又學乃道爾伊多都伎勉留人  
 令乎守男替氣豆思比得難爾苦牟事波速氣久思比得之  
 米違閉留方爾惑閉留心波真直爾改米悟良志米賜閉刀  
 乞祈早如是仕奉留式乃漏落過多牟事等波廣伎御心爾  
 見直志聞直志相宇豆那比賜閉刀(祈願)齋主某忌志理嚴  
 志理畏美畏美毛稱言竟奉良久刀白須結尾  
 ○豐御食乃飯高の枕詞なり○御稜威乃高知留宮とい、神徳の著明なる宮といふ

意なり○宇豆乃御前は、尊き御前なり○大御璽乃神寶は、三種の神寶なり○水鳥  
 乃は、羽倉の枕詞なり○稻荷山嶺乃矛楯は、高久嚴志久と云はむ料の序詞なり○稻荷  
 山は、京都の稻荷山にて羽倉大人の生地なる故に、かく綾なせるなり○水蓮乃は、岡  
 部の枕詞なり○引馬野乃小野乃榛原は、深久廣久といはむ料の序詞なり、岡部大人は  
 遠州の産なる故に其の名所を以ちてかく綾なせるなり○秋津彦美豆櫻根大人命  
 は、本居大人なり○神璽眞柱大人命は、平田大人なり

祭祖靈祝詞

(古學諱辭集)

謹美敬此豆遠津御祖乃御靈代代乃御祖親族諸御靈  
 等乃御前爾子孫姓名近伎郷々乃大神等爾社奉留神主  
 等諸共爾鹿自物膝折伏世鵜自物項根突奴伎豆恐美恐  
 美白須拜發端天避留鄙知布鄙乃中爾毛此乃上津總國伊  
 隅長柄乃邊波毛鳴我鳴吾嬌國乃東乃極美朝日乃直指



須海原近伎郷々爾互上津代波郷人等生出留隨爾表裏  
 乃心逆志良心有事無久清伎赤伎眞澄鏡乃曇奈伎心爾  
 奈毛有祁禮婆一向爾皇美麻命乃大御面向祁爾順比奉  
 里種々乃取行布和射乎毛總氏古事乃例爾倣比氏勤美  
 行比來爾祁流遠三粟乃中津代爾至里互蟹我行橫佐乃  
 道乃參渡里內日刺都乎始米四方八乃鄉里野乃底山  
 乃底萬氏弘基里氏皇大御國乃古事廢禮大神等乃御稜  
 威毛彌隱里爾隱呂比行伎互官人等我仕奉留神業波歲  
 爾異爾卑志米貶佐延都々伊武勢伎布勢慮爾屈美互居  
 禮婆佐賀無伎人等波橫佐乃道乃時米久爾毛智鳥乃拘  
 良比泥美互其方爾相麻自古理相口會互已我仕奉留御

社已我家乎毛退伎去理互永久其迹乎斷爾志人毛多加  
 留爾(由緣)辱久雄々志久毛吾家乃御靈等與當昔次々乃  
 荒廢乎之毛痛久忍婆志都々仕奉禮留御社其家乃子孫  
 乃嗣嗣彌遠長爾守里保知互今爾傳閉給閉流事波最毛  
 尊伎辱伎恩賴爾奈母有祁留神德此如久尊支恩賴爾依  
 互奈牟今之毛玉幸波布大神等乃御心登古學比乃宇麻  
 志大人等次次爾世爾出坐底神代乃故實見之明良米顯  
 事幽事萬乃由緒乎毛詳爾說明志世爾教悟志給比互日  
 爾月爾惟神奈留御道乎慕比學夫徒澤爾出來互大神等  
 乃御稜威波漸爾古昔爾立復里照耀伎官人等毛大神等  
 乃稜威乃御光乎蒙里互牟具良繁禮留布勢慮乃柴乃破

戸采推開俵豆尊伎御道乃片端乎毛手取行比氏正道乃  
 正直奈留趣横佐乃道乃横佐奈留趣乎毛窺比知留々事  
 登奈母成奴留波自今後彌益益爾此學乃榮行久御世止  
 成那牟事乃甚嬉志久歡志支爾就互姓名奈毛其恩賴爾  
 報奉留止志互世世乃御祖能御祭殊爾仕奉良麻久思比  
 立奴流時爾合世互近伎鄉々乃常母睦魂相閉留神注等  
 毛同様爾其御祖等乃恩賴呼蒙禮婆各毛各毛互爾其家  
 家袁廻里兵御祭相助那都々仕奉牟登言布爾語合互(感  
 謝)今日乎生日乃足日登擇定米豆姓名我與津小床袁伊  
 豆能磐境登掃清免奧山乃賢木乃枝乎打折持來互伊豆  
 乃眞坂樹登三所爾刺立時乃花乎毛取添互神籬成波夜

志齋比立奉互(裝束)姓名我弱肩爾太襖取掛互持齋麻波  
 里持清麻波里造理仕閉奉禮留一夜酒登我爾波安良受  
 石多多須常世爾在須久斯乃神少御神乃釀志御酒登乎  
 白木黒木登襲瓮高知里襲腹居竝倍百杵乃八百杵爾杵  
 突伎仕奉禮留餅乃鏡時自久乃香能菓種々爾栗實柿實  
 梨實洗米赤飯堅鹽御毛比大野原爾生留物波甘菜辛菜  
 乎始米種々乃物青海原爾住物波鯖乃廣物鯖乃狹物大  
 海仁生流物波廣和布荒和布若和布乃奧津藻葉邊津藻  
 葉爾至留麻氏爾今日乃禮代御饗乃物登各毛各毛持寄  
 滿竝倍立奉互恐美恐美母申佐久遠津御祖代代乃御祖  
 親族乃御靈等今如此久刺立齋比奉流神乃小床爾天翔

來坐此獻奉流多米都物乎御心母和親爾平介久安良介  
 久安幣帛乃足幣帛登所聞食豆(獻供)姓名我家爾毛身爾  
 毛枉事有世受夜乃守日乃守爾守幸閉宇豆那比給此子  
 孫乃八十相續伎無窮爾根母蕃呂爾吾御社爾勤美仕奉  
 志米學問乃道物書久業乎毛勤志米家名乎毛貶佐志米  
 受遠長爾御祭善志久仕奉志米給閉止(祈願)今日乃御祭  
 爾相集爾留神主等諸共爾鵝成竝居宗自物頸根衝拔豆  
 歪手打土那拜美恐美恐美毛申給波久登白須拜結尾  
 ○天避留は、鄙の枕詞なり○鳥我鳴は、東國の枕詞なり○三粟乃は、中の枕詞なり○  
 毛智鳥乃は、拘の枕詞なり○時自久乃香能菓は、橘實なり  
 以上の文は、皆近古の文なり、次の月次祭以下は、祝詞式により採れる古文なり  
 六月月次

御門乃御巫能辭竟奉皇神等能前爾白久一發端櫛磐間門  
 命豐磐間門命登御名者白氏辭竟奉者四方能御門爾湯  
 都磐村能如久塞坐氏朝者御門開奉夕者御門閉奉氏疎  
 布留物乃自下往者下乎守自往者上乎守夜乃守日乃  
 守爾守奉故(神德)皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎(獻供)稱辭竟  
 奉久登宣拜結尾  
 生島乃御巫能辭竟奉皇神等乃前爾白久一發端生國足國  
 登御名者白氏辭竟奉者皇神乃敷坐島乃八十島者谷蟻  
 能狹度極鹽沫乃留限利狹國者廣久嶮國者平久島乃八  
 十島墮事無久皇神等寄志奉故(神德)皇御孫命乃宇豆乃  
 幣帛乎(獻供)稱辭竟奉久登宣拜結尾

辭別伊勢爾坐天照太御神乃大前爾白久一發端皇神乃見  
 霽志坐四方國者天乃壁立極國乃退立限青雲乃靄極白  
 雲乃向伏限青海原者棹柁不干舟艦乃至留極大海原  
 爾舟滿都都氣氏自陸往道者荷緒結堅氏磐根木根履佐  
 久彌馬爪至留限長道無間久立都都氣氏狹國者廣久  
 峻國者平久遠國者八十綱打挂氏引寄如事皇太御神寄  
 志奉良波(神德)荷前者皇太御神乃前爾如橫山打積置氏  
 殘乎波平聞看一感謝又皇御孫命御世乎手長御世登堅  
 磐爾常磐爾齋比奉茂御世爾幸閉奉故(神德)皇吾睦神漏  
 伎命神漏彌命登鷓自物頸根衝拔氏(感謝)皇御孫命乃宇  
 豆乃幣帛乎(獻供)稱辭竟奉久登宣一結尾  
 拜詞

右の文は、又と云ふ語を置きて神徳と感謝とを、二所における格なるべし

遣唐使時奉幣

皇御孫尊乃御命以氏住吉爾稱辭竟奉留皇神等乃前爾  
 申賜久一拜發端大唐爾使遣佐牟止爲爾依船居無氏播磨國  
 與理船乘爲氏使者遣佐牟止所念行間爾皇神命以氏  
 船居波吾作牟止教悟給比支由緣教悟給比那我良船居  
 作給部禮波悅已備嘉志美(感謝)禮代乃幣帛乎官位姓名  
 爾令捧賣氏進奉久止申一結尾  
 略詞

此の文は、結尾句に獻供句をも兼ねたる格なるべし

春日祭

天皇我大命爾坐世恐岐鹿島坐健御賀豆智命香取坐伊

波比主命。枚岡坐天之子八根命。比賣神。四柱能皇神等能  
 廣前仁白久。拜發端大神等能。乞賜比能任爾。春日能三笠山  
 能下津石根爾。宮柱廣知立高天原爾。千木高知氏。天乃御  
 蔭日乃御蔭止定奉氏。由綠貢流神寶者。御鏡。御橫刀。御弓。  
 御梓。御馬。爾備奉理。御服。波。明多閉照多閉和多閉荒多閉  
 爾住奉氏。四方國能獻禮。留御調能荷前取竝氏。青海原乃  
 物者。波多能廣物。波多能狹物。奧藻菜邊藻菜。山野物者。甘  
 菜。辛菜。爾至麻豆。御酒者。饗上高知。饗腹滿竝氏。雜物乎。如  
 橫山積置氏。神主爾。某官位姓名乎。定氏。獻流宇豆乃大幣  
 帛乎。安幣帛乃足幣帛登。平久安久聞食者登。皇大御神等  
 乎。稱辭竟奉久登。白獻供如此仕奉爾。依氏。今母去前母。天

皇我朝廷乎平久安久足御世乃茂御世爾齋奉利常磐爾  
 堅磐爾福閉奉利。預而仕奉流。處處家家王等。卿等乎  
 母平久。天皇我朝廷爾。伊加志夜久波。叡能如久仕奉利。佐  
 加叡志米賜登。祈願稱辭竟奉良久登。白拜結尾

平野祭

天皇我御命爾坐世。今木與利仕奉來流。皇大御神能廣前  
 爾白給久。拜發端皇大御神乃乞志給乃任爾。此所能底津石  
 根爾。宮柱廣敷立高天乃原爾。千木高知氏。天能御蔭日能  
 御蔭登定奉氏。由綠神主爾。神祇某官位姓名定氏。進流神  
 財波。御弓。御太刀。御鏡。鈴。衣。笠。御馬乎。引竝氏。御衣波。明多  
 閉照多閉和多閉荒多閉爾。備奉利豆。四方國能進禮流。御

調能荷前乎取竝氏御酒波。厩戸高知厩腹滿竝氏山野能  
 物波甘菜辛菜青海原乃物波。波多能廣物波多能狹物。奧  
 都毛波邊津毛波爾至麻氏雜物乎。如橫山置高成氏獻  
 流宇豆乃大幣帛乎。平久所聞氏(獻供)天皇我御世乎。堅磐  
 爾常磐齋奉利。伊賀志御世爾幸閉奉氏。萬世爾御座令在  
 米給登(祈願)稱辭竟奉久登申(拜結尾)  
 又申久(發)端(參)氏仕奉流。親王等王等臣等百官人等乎母。  
 夜守日守爾守給氏。天皇我朝廷爾。伊夜高爾伊夜廣爾。伊  
 賀志夜具波江乃如久。立榮之米令仕奉給登(祈願)稱辭竟  
 奉久止申(拜結尾)

新年祭

御年皇神等能前爾白久(拜發)端(皇)神等能依左志奉牟奧津  
 御年乎。手肱爾水沫畫垂向股爾泥畫寄氏。取作牟奧津御  
 年乎。八束穗能伊加志穗爾。皇神等能依左志奉者(神德)初  
 穗乎波。千穎八百穎爾奉置氏。厩閉高知厩腹滿雙氏。汁爾  
 母穎爾母稱辭竟奉牟一大野原爾生物者。甘菜辛菜。青海原  
 住物者。鯖爾廣物。鯖能狹物。奧津藻菜邊津藻菜爾至氏爾。  
 御服者。明妙照妙和妙荒妙爾稱辭竟奉牟一感謝御年皇神  
 能前爾。白馬白猪白鷄。種種色物乎備奉氏。皇御孫命能宇  
 豆乃幣帛乎(獻供)稱辭竟奉久登宣(拜結尾)

龍田風神祭

龍田爾稱辭竟奉皇神乃前爾白久(拜發)端(志)貴島爾大八島

國知志皇御孫命乃遠御膳乃長御膳止赤丹乃穗爾聞食  
 須五穀物乎始氏天下乃公民乃作物乎草乃片葉爾至  
 萬氏不成一年二年爾不在歲真尼久傷故爾百能物知  
 人等乃卜事爾出牟神乃御心者此神止白止負賜遠此事  
 物知人等乃卜事乎以氏卜止母出留神乃御心母無止白  
 止聞着氏皇御孫命詔久神等乎波天社國社止志事無  
 久遺事無久稱辭竟奉止思志行波須乎誰神會天下乃公  
 民乃作物乎不成傷神等波我御心會止悟奉禮止宇  
 氣比賜支是以皇御孫命大御夢爾悟奉久天下乃公民乃  
 作物乎惡風荒水爾相都都不成傷波我御名者天乃御  
 柱乃命國乃御柱乃命止御名者悟奉氏吾前爾奉奉幣帛

者御服者明妙照妙和妙荒妙五色乃物楯戈御馬爾御鞍  
 具聖品品乃幣帛備氏吾宮者朝日乃日向處夕日乃日隱  
 處乃龍田能立野乃小野爾吾宮波定奉氏吾前乎稱辭竟  
 奉者天下乃公民乃作物者五穀乎始氏草乃片葉爾  
 至乃氏成幸開奉奉止悟奉支是以皇神乃辭教悟奉處在  
 官柱定奉氏此乃皇神能前爾稱辭竟奉爾皇御孫命乃宇  
 豆乃幣帛乎命捧持氏王臣等乎爲使氏稱辭竟奉久一由緣  
 奉宇豆乃幣帛者比古神爾御服明妙照妙和妙荒妙五色  
 物楯戈御馬爾御鞍具氏品品能幣帛獻比賣神爾御服備  
 金能麻笥金能櫛金能持明妙照妙和妙荒妙五色能物御  
 馬爾御鞍具氏雜幣帛奉氏御酒者臆能閑高知臆腹滿雙

氏。和稻荒稻爾。山爾住物者。毛乃和物毛乃荒物。大野原生  
 物者。甘菜辛菜。青海原爾住物者。緒能廣物。緒能狹物。奥都  
 藻菜邊都藻菜爾。至万氏爾。如橫山打積置氏。奉此宇豆乃  
 幣帛乎。安幣帛能足幣帛止。皇神能御心爾。平久聞食氏。獻  
 供。天下能公民能作作物乎。惡風荒水爾不相賜。皇神乃成  
 幸閉賜者。初穗者。應能閉高知。應腹滿雙氏。汁爾母。穎爾母。  
 八百稻千稻爾。引居置氏。秋祭爾。奉。牟止(新願)王。卿等。  
 百官能人等。倭國六縣能乃。禰男女爾。至萬氏爾。今年四月  
 諸參集氏。皇神能前爾。宇事物頸根築拔氏。今日能朝日能  
 豐逆登爾。稱辭竟奉。流一拜結尾。

鎮火祭

高天原爾神留坐。皇親神漏義神漏美能命持氏。皇御孫命  
 波。豐葦原乃水穗國乎。安國止平久所知食止。天下所寄奉  
 志時爾。事寄奉志天都詞太詞事乎。以氏申公。拜發。神伊佐  
 奈伎伊佐奈美乃命。妹背二桂嫁繼給氏。國乃八十國島能  
 八十島乎生給比。八百萬神等乎生給比氏。麻奈弟子爾。火  
 結神生給比。美保止被燒氏。石隱坐氏。夜七夜晝七日。吾乎  
 奈見給比會。吾奈妹乃命止。申給比支。此七日爾。波不足氏。  
 隱坐事奇止。氏見所行須時。火乎生給比。御保止乎所燒坐  
 支。如是時爾。吾名妹乃命能。吾乎見給布奈止申乎。見阿波  
 多志給比津止。申給比。吾名妹能命波。上津國乎所知食倍  
 志。吾波下津國乎所知牟止白氏。石隱給比。與美津枚坂爾。



至坐氏所思食久。吾名妖命能所知食上津國爾。心惡子乎  
 生置氏來奴止宣氏返坐氏更生子水神匏川菜埴山姬  
 四種物乎生給氏此能心惡子乃心荒比會波水神匏埴山  
 姬川菜乎持氏鎮奉禮止事教悟給支由緣依此氏稱辭竟  
 奉者皇御孫能朝廷爾御心一速比給波志止爲氏(祈願)進  
 物波明妙照妙和妙荒妙五色物乎備奉氏青海原爾住物  
 者鱸廣物鱸狹物與津海菜邊津海菜爾至萬氏爾御酒者  
 魁邊高知魁腹滿雙氏和稻荒稻爾至萬氏爾如橫山置高  
 成氏(獻供)天津祝詞乃太祝詞事以氏稱辭竟奉久止申一結  
 詞拜 遷却崇神祭

高天之原爾神留坐氏事始給志神漏伎神漏美能命以氏  
 天之高市爾八百萬神等乎神集集給比神議議給氏我皇  
 御孫之尊波豐葦原能水穗之國乎安國止平氣久所知食  
 止天之磐座放氏天之八重雲乎伊頭之千別支爾千別氏  
 天降所寄奉志時爾誰神乎先遣波志水穗國能荒振神等  
 乎神攘攘平氣武止神議議給時爾諸神等皆量申久天穗  
 日之命乎遣而平氣武止申支是以天降遣時爾此神波返  
 言不申氏次遣志健三熊之命毛隨父事氏返言不申又遣  
 志天若彥毛返言不申氏高津鳥殃爾依氏立處爾身亡支  
 是以天津神能御言以氏更量給氏經津主命健雷命二柱  
 神等乎天降給比氏荒振神等乎神攘攘給比神和和給氏

語問志磐根樹立草之片葉毛語止。皇御孫之尊乎。天降  
 所寄奉支如此久。天降所寄奉志。四方之國中。大倭日高  
 見之國乎。安國止。定奉。下津磐根。爾宮柱太敷立。高天之  
 原。爾千木高知。天之御蔭。日之御蔭。止。仕奉。安國止。平  
 氣久所知。食牟(由緣)皇御孫之尊。乃。天御舍之内。仁坐。須皇  
 神等波。荒備給比健備給比。崇給事無志。高天之原。爾始  
 志事乎。神奈我良。毛所知。食。神直日大直日。爾直志給比  
 自此地。波四方乎。見。霧山川。能清地。爾遷出坐。吾地止  
 宇須波伎坐。世止(祈願)進幣帛者。明妙照妙和妙。荒妙爾備  
 奉。見明物止。鏡。翫物止。玉射放物止。弓矢打斷物止。太刀。  
 馳出物止。御馬。御酒者。脰。戶高知。脰腹滿。雙。米爾。毛。穎。爾。

毛。山。爾。住物者。毛乃和物。毛能荒物。大野原。爾。生物者。甘菜  
 辛菜。青海原。爾。住物者。鯖。廣物。鯖。狹物。奥津海菜。邊津海菜  
 爾。至。萬。氏。爾。橫山。之。如。久。凡物。爾。置所。足。氏。奉。留。宇。豆。乃。幣  
 帛乎。皇神等。乃。御心。毛。明。爾。安幣。帛。乃。足。幣。帛。止。平。久。聞。食  
 氏(獻供)崇給比健備給事無之。山。川。之。廣。久。清。地。爾。遷。出  
 坐。氏。神。奈。我。良。鎮。坐。世。止(祈願)稱辭。竟。奉。止。申。結。尾。拜。詞。

第四章 送假字と音假字

凡。祝詞文に。送假字を加ふるに。單語法と複語法との二  
 法ありとす。單語法とは。一言一語に送假字を加ふる規  
 則をいふなり。即ち左の如し。一用言は。作用言と形狀言とを問はず。すべし其の語尾

を加ふること  
 一 良行四段一格に轉活せるは、其の本語の語尾を添ふること  
 一 續用段を体言に言ひ居ゐたるは、其の本段の語尾を加ふること

但し、氷扇コホリアフキの如き物名言は此の限りにあらず  
 一 延言は、其の延ノズルれる語尾を加ふること  
 一 其此彼の如き、そのこのかの訓む所は、のの字を加へ、吾我誰の如き、わがたがと訓む所は、がの字を加ふること

今、祝詞中の語にありて、之を説明すべし

生ナマ 受ウケ 動ウツ 領ウケ 畫エガ 撥カケ 辟ヒラ 敷シ 退ヒ 噪ノ 靄カ 繼ツ  
 衝ツ 築ツ 嫁ツ 拔ツ 剝ツ 佩ツ 披ツ 引ツ 吹ツ 防ツ 壽ツ 詩ツ  
 燒ツ 往ツ 去ツ 別ツ 沸ツ

あられは、加行四段に活く詞をもあれば、加、伎、久、氣、と送假字を加ふべきなり  
 開ケル 挂ケル 捧ケル 排ケル 平ケル 付ケル 託ケル 續ケル 平ケル 儲ケル 別ケル

あられは、同行下二段に活く詞なれば、氣、久、久流、久禮、と加ふべきなり

思オモ 行ハス 犯ハス 押ハス 聞キコ 下ス 降ス 乞コ 凝コ 悟ス 刺シ 知シ  
 足タラハ 仆ハス 遣ハス 問ハス 成ス 直ス 和ス 霽ハル 霽ハル 伏ス 干ス 坐ス  
 白ス 申ス 益ス 見所行ミソハ 食ス 和ス 依ス

あられは、佐行四段に活く詞なれば、左、志、須、世、と加ふべきなり

相アハ 失スレ 仰ス 負ス 馳ス 寄ス

あられは、同行下二段に活く詞なれば、世、須、須流、須禮、と加ふべきなり

過 打 降 立 斷 放 持

おれらは、多行四段に活く詞なれば、多、知、都、氏、と加ふべきなり  
落 遺 墮

おれらは、同行上二段に活く詞なれば、知、都、都流、都禮、と加ふべきなり  
出 立

おれらは、同行下二段に活く詞なれば、氏、都、都流、都禮、と加ふべきなり  
往

おれらは、奈行三段に活く詞なれば、奈、爾、奴、奴流、奴禮、と加ふべきなり  
會 齋 言 失 負 思 錯 隨 傷 給 賜 問

飛 詔 拂 祓 躡 向 翫 結 縛 選

おれらは、波行四段に活く詞なれば、波、比、不、閉、と加ふべきなり  
荒 疎 麤 生 媚

おれらは、同行上二段に活く詞なれば、比、不、不流、不禮、と加ふべきなり  
幸 備 具 副 稱 食 賜 仕 集 雙 竝 祓

教 竟

おれらは、同行下二段に活く詞なれば、閉、不、不流、不禮、と加ふべきなり  
生 恐 住 積 吞 履 踏 惠

おれらは、麻行四段に活く詞なれば、麻、美、牟、米、と加ふべきなり  
見

おれらは、同行上二段に活く詞なれば、美、美流、美禮、と加ふべきなり  
明 埋 堅 清 定 令 鎮 靜 進 勤 始 止

おれらは、同行下二段に活く詞なれば、米、牟、牟流、牟禮、と加ふべきなり  
射

おれらは、夜行上二段に活く詞なれば、以、以流、以禮、と加ふべきなり

聞見榮絶若

あれらは、同行下二段に活く詞なれば、延、由、由流、由禮、と加ふべきなり

坐

あは、和行上一段に活く詞なれば、章、章流、章禮、と加ふべきなり

居

あは、同行下二段に活く詞なれば、惠、宇、宇流、宇禮、と加ふべきなり

退	登	進	翔	預	罷	殘	貢	返	在	廻	遺	獻	切	有	却	乘	垂	來	明	齋	議	足	淨	餘	依	量	賜	籠	入	度	侍	崇	避	集	渡	塞	作	塞	遷	居	振	造	知	冠		掘	鳴	鎮	刈		守	成	靜	隱		參	生	奉	限
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---

あれらは、良行四段に活く詞なれば、良、利、流、禮、と加ふべきなり

生漏忘

あれらは、同行下二段に活く詞なれば、禮、流、流々、流禮、と加ふべきなり

坐

あは、佐行四段の世より、再、有の活へ轉りて、更に良利流禮と活く詞なれば、世良、世利、世流、世禮、と加ふべきなり

立

あは、多行四段の氏より、再、有の活へ轉りて、活く詞なれば、氏良、氏利、氏流、氏禮、と加ふべきなり

傷

あは、波行四段の閉より、再、有の活へ轉りて、活く詞なれば、閉良、閉利、閉流、閉禮、と加ふべきなり

預集奉作

おれらひ、良行四段の禮より、再、有の活へ轉りて、活く詞なれば、禮良、禮利、禮流、  
禮々、と加ふべきなり

荒<sup>シ</sup> 甘<sup>シ</sup> 恐<sup>シ</sup> 畏<sup>シ</sup> 穢<sup>シ</sup> 如<sup>シ</sup> 狹<sup>シ</sup> 近<sup>シ</sup> 遠<sup>シ</sup> 無<sup>シ</sup> 長<sup>シ</sup> 廣<sup>シ</sup>

これらひ、久、志、伎、と活く詞なり、送假字も、其の如く加ふべし

惡<sup>シ</sup> 邪<sup>シ</sup> 奇<sup>シ</sup> 茂<sup>シ</sup> 峻<sup>シ</sup>

おれらひ、志、志久、志伎、と活く詞なり、送假名も、其の如く加ふべし

平<sup>ケ</sup> 安<sup>ケ</sup>

おれらひ、氣久、氣志、氣伎、と活く詞なり、送假字も、其の如く加ふべし

緩<sup>ヒ</sup> 噪<sup>キ</sup>

おれらひ、四段に活く詞なり、そを、寫<sup>ツ</sup>目能<sup>メ</sup>緩<sup>ヒ</sup>比<sup>ヒ</sup>、草<sup>カ</sup>乃<sup>ノ</sup>噪<sup>ソ</sup>峻<sup>キ</sup>と体言にいひすゑたると

おろひ、其の如く、送假字を加ふべし

進<sup>ス</sup> 勤<sup>ム</sup>

おれらひ、下二段に活く詞なり、そを、宮<sup>ミヤ</sup>進<sup>ス</sup>米<sup>メ</sup>爾<sup>ニ</sup>進<sup>ス</sup>米<sup>メ</sup>、宮<sup>ミヤ</sup>勤<sup>ム</sup>米<sup>メ</sup>爾<sup>ニ</sup>勤<sup>ム</sup>米<sup>メ</sup>と上の體言にいひ、

下は用言にいふも、とにも、送假字を加ふべし

奉<sup>タテマツ</sup>良<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup> 宣<sup>ノボ</sup>波<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup> 白<sup>シラ</sup>左<sup>サ</sup>久<sup>ク</sup>

これらひ、奉<sup>タテマツ</sup>宣<sup>ノボ</sup>白<sup>シラ</sup>須<sup>ス</sup>の延言なれば、右の如く、送假字を加ふべし

複語法とは、二言二語及神名地名等に、送假字を加ふる規則をいふふり。即ち左の如し

一二箇の用言連續せるものは、其の上の詞の送假字を省きて其の下の詞にのみ加ふる事

一箇の用言と一箇の體言との連續せるも、また、其の上の語の送假字を省く事

一神名地名等の間に加ふべき送假字は之を省く事  
今、祝詞中の語にあて、之を説明せば

聞<sup>キ</sup>食<sup>シ</sup>須<sup>ス</sup>。知<sup>チ</sup>食<sup>シ</sup>須<sup>ス</sup>。上<sup>ウ</sup>坐<sup>ザ</sup>須<sup>ス</sup>。至<sup>シ</sup>坐<sup>ザ</sup>須<sup>ス</sup>。祓<sup>ハ</sup>給<sup>キ</sup>比<sup>ヒ</sup>。清<sup>キ</sup>給<sup>キ</sup>布<sup>フ</sup>。齋<sup>イ</sup>奉<sup>ホ</sup>利<sup>リ</sup>。幸<sup>サ</sup>奉<sup>ホ</sup>利<sup>リ</sup>。太<sup>ト</sup>知<sup>チ</sup>利<sup>リ</sup>。高<sup>カ</sup>知<sup>チ</sup>利<sup>リ</sup>。取<sup>ト</sup>作<sup>ゾ</sup>留<sup>リウ</sup>。畫<sup>カ</sup>垂<sup>シ</sup>利<sup>リ</sup>。

また。住<sup>ス</sup>物<sup>モノ</sup>。生<sup>オ</sup>物<sup>モノ</sup>。生<sup>シ</sup>日<sup>ニチ</sup>。足<sup>タ</sup>日<sup>ニチ</sup>。

また。健<sup>ケン</sup>御<sup>ミ</sup>賀<sup>カ</sup>豆<sup>ツ</sup>智<sup>チ</sup>命<sup>メイ</sup>。伊<sup>イ</sup>波<sup>ハ</sup>比<sup>ヒ</sup>主<sup>メ</sup>命<sup>メイ</sup>。皇<sup>クワン</sup>御<sup>ミ</sup>孫<sup>ソ</sup>命<sup>メイ</sup>。出<sup>イ</sup>雲<sup>ウン</sup>國<sup>クニ</sup>の如<sup>ニ</sup>し。其<sup>ソノ</sup>他<sup>タ</sup>類<sup>レイ</sup>を推<sup>オシ</sup>して知<sup>チ</sup>るべし。

○

音假字は送假字に用ゆるのみならず。古今の言語を祝詞文に寫さむには。音假字を用ゆるべからざる必要あり。故に之を臚<sup>ロ</sup>列<sup>レツ</sup>すること。左の如し。

一 音假字

〔ア〕阿安

〔イ〕伊

〔ウ〕宇汗

〔エ〕観延愛

〔オ〕意淤隱

〔カ〕加可迦甲

〔キ〕伎支貴岐企紀幾吉

〔ク〕久玖

〔ケ〕氣計家祁

〔コ〕許胡古己

〔サ〕左佐射沙

〔シ〕志之斯師

〔ス〕須周

〔セ〕世勢

〔ソ〕晉蘇宗

〔タ〕多太他

〔チ〕智知

〔ツ〕都

〔テ〕氏天帝

〔ト〕登刀斗等

〔ナ〕那奈

〔ニ〕爾仁

〔ヌ〕奴怒

〔子〕彌泥尼

〔シ〕能乃

〔ハ〕波入

〔ヒ〕比肥斐

〔フ〕布府

〔ヘ〕閑部幣閉

〔ホ〕保富本

〔マ〕麻万末

〔ミ〕彌美味微

〔ム〕牟武无

〔メ〕賣米咩



〔モ〕母毛

〔ヤ〕夜也

〔ユ〕由

〔ヨ〕與用豫余

〔ラ〕良羅

〔リ〕利理

〔ル〕留流魯

〔レ〕禮

〔ロ〕呂漏

〔ワ〕和

〔ヰ〕章

〔ヱ〕惠

〔ヲ〕袁

濁音假字

〔ガ〕我賀

〔ギ〕藝疑

〔グ〕具

〔ゲ〕祁下宜牙

〔ゴ〕碁

〔ザ〕耶奢

〔ジ〕事自士

〔ズ〕受

〔ゼ〕是

〔ゾ〕叙

〔ダ〕陀

〔チ〕遲治地

〔ツ〕豆頭

〔テ〕傳殿

〔ド〕杼度

〔バ〕婆

〔ビ〕備

〔ブ〕夫

〔ベ〕倍辨

〔ホ〕煩

祝詞作文法終

明治二十四年十二月廿七日印刷  
同 年 同 月 廿 八 日 出 版

(定價金拾五錢)

著 述 者

東京市麴町區飯田町二丁目四十七番地望遠館  
春 山 賴 母

發 行 者

東京市神田區旅籠町一丁目十二番地  
秋 山 國 助

發 行 所

東京市麴町區飯田町五丁目八番地  
水 穗 會

印 刷 人

東京市麴町區飯田町五丁目廿六番地  
近 藤 圭 造

印 刷 所

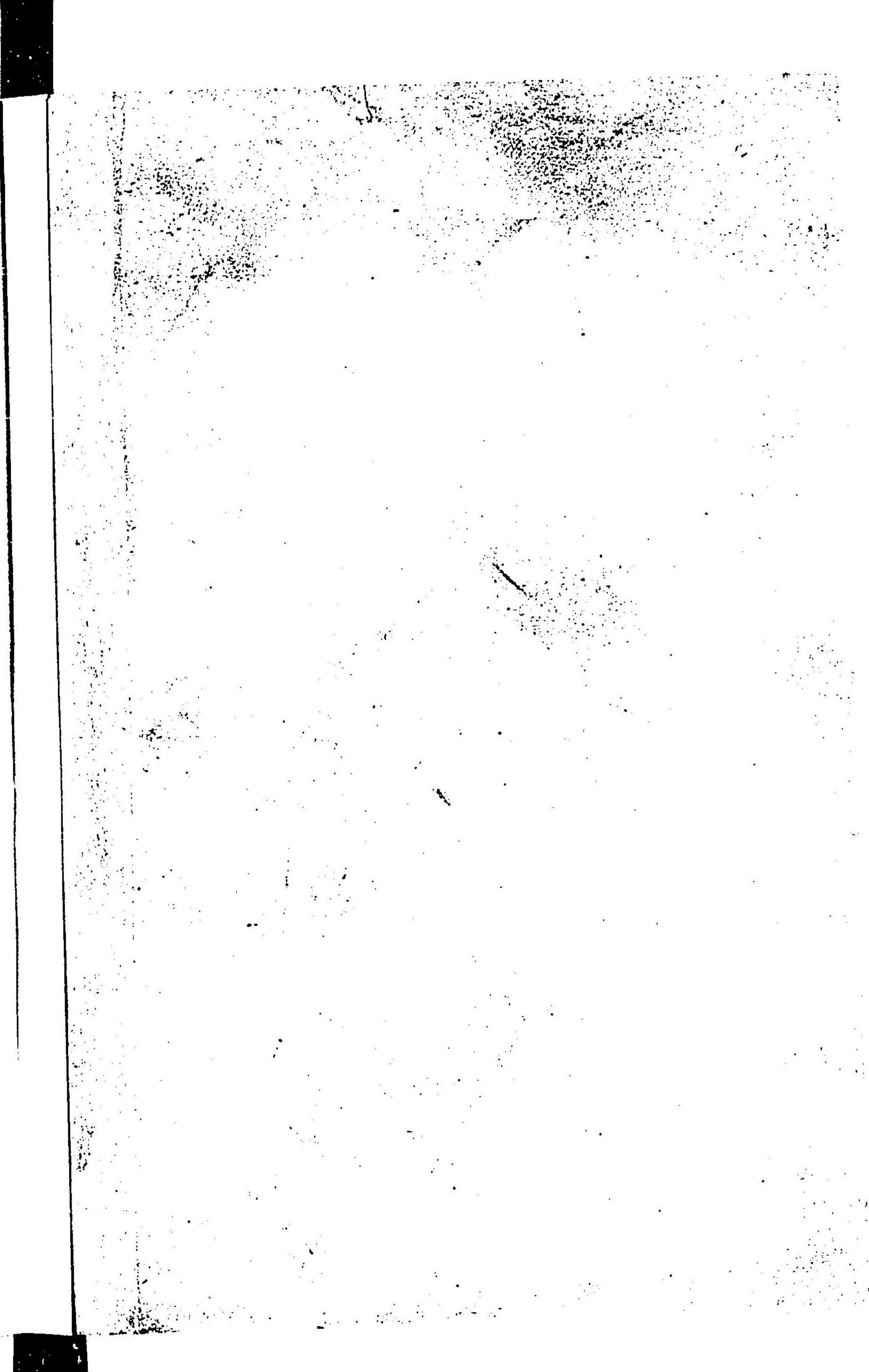
同  
皇典講究所印刷部

版 權 所 有



1

1111



[Redacted]

特 19

685

祝詞作文法

国立国会図書館

014530-000-0

特19-685

祝詞作文法

春山 頼母/著

M24

ABB-0914



